

IV 資料編

1. 策定手続関係資料

- (1) 策定体制
- (2) 審議会
- (3) 市民参加
- (4) 市議会
- (5) 計画策定の流れ

2. 附属資料

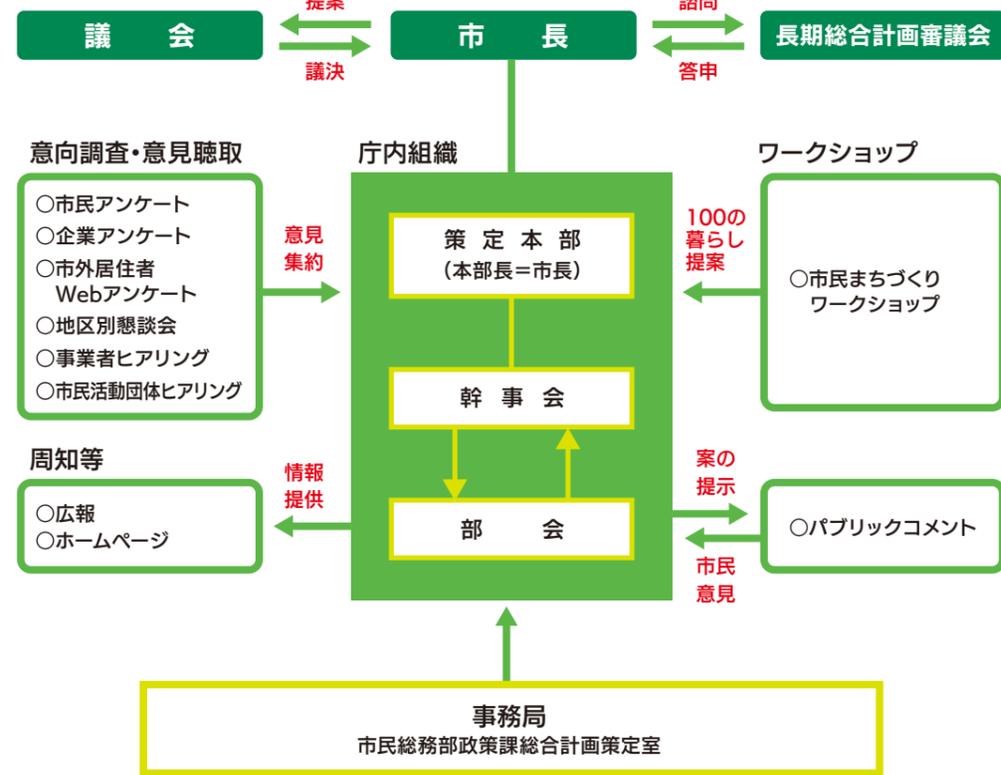
- (1) 人口の動向
- (2) 産業の動向
- (3) 市民アンケート
- (4) 企業アンケート
- (5) 市外居住者WEBアンケート
- (6) 将来人口推計
- (7) 4つの実感プロジェクトの目標値と重要目標達成指標(KGI)の関連性について
- (8) 第6次塩竈市長期総合計画の構成
- (9) 第6次塩竈市長期総合計画の施策の柱とSDGsの17の目標の関係
- (10) しおがま未来創生プロジェクトとSDGsの17の目標の関係
- (11) 第6次塩竈市長期総合計画と主な個別計画との関連性
- (12) 用語集

01

策定手続関係資料

(1) 策定体制

① 策定組織



② 策定組織の役割

○策定本部	<ul style="list-style-type: none"> ●基本構想・基本計画原案の調整及び決定、その他重要事項の意思決定を行う。 ●市長を本部長とし、副市長、教育長、各部長、政策調整監、公民共創推進専門監、危機管理監で構成する。 ●事務局は市民総務部政策課に置く。
○幹事会	<ul style="list-style-type: none"> ●部会で作成された総合計画の原案の調整・修正等並びに策定本部と部会との調整を行う。 ●政策調整監、各部門調整課長、市民総務部政策課長、同財政課長、市立病院事務部業務課長、水道部業務課長から構成する。 ●事務局は市民総務部政策課に置く。
○部会	<ul style="list-style-type: none"> ●各部門に係る事項について調査・研究を行うとともに総合計画原案の作成を行う。 ●部長、課長、その他必要な職員から構成する。 ●事務局は各部門調整課に置く。

「塩竈市長期総合計画策定本部規程」(昭和54年6月30日庁訓第2号)

(2) 審議会

審議会は、市長からの諮問に応じ、第6次塩竈市長期総合計画に関する調査審議を行い、策定した計画(案)を市長に対して答申しました。

① 委員名簿

氏名	所属	備考
柳井 雅也	東北学院大学教養学部地域構想学科 教授	会長
草間 吉夫	宮城誠真短期大学 特任教授	副会長
佐々木 秀之	宮城大学事業構想学群地域創生学類 准教授	副会長
渡辺 豊	元毎日新聞記者	
佐藤 晴一	塩竈市水産振興協議会 会長	
丹野 光明	塩竈商工会議所 顧問	
下館 達也	塩竈市観光物産協会 副会長	
土井 儀憲	塩竈市都市計画審議会 委員	
田中 京子	社会福祉法人塩竈市社会福祉協議会 塩竈市北部1地区包括支援センター 管理者	
佐藤 京子	塩竈市民生委員児童委員協議会 副会長	
中村 邦綱	塩竈市老人クラブ連合会 会長	
赤石 隆	公益社団法人宮城県塩竈医師会 会長	
櫻井 初江	塩竈市芸術文化協会 理事	
志賀 重信	特定非営利活動法人塩竈市体育協会 会長	(前任)
今野 吉晃	〃 副会長	令和2年8月31日～
佐藤 英	塩竈市父母教師会連合会 前会長	
江湖 貴恵	塩竈地区私立幼稚園連合会 塩竈ひまわり幼稚園 園長	
菊地 勝己	塩竈金融協会会長・七十七銀行塩竈支店長	(前任)
三瓶 淳也	〃	令和3年7月12日～
土井 萬平	西部地区町内会連絡協議会 会長	
内海 柔蔵	塩竈市浦戸振興推進協議会 会長	(前任)
島津 功	〃	令和3年7月12日～
本間 良	塩竈商工会議所青年部 出向理事	
大山 裕人	志波彦神社・鹽竈神社氏子青年会 青少年育成委員	
田中 大輔	公益社団法人塩竈青年会議所 理事長	
佐藤 浩紀	おとな体育祭in塩竈実行委員会 実行委員長	
太田 岳志	平成31年成人式実行委員会 実行委員	
阿部 真由子	令和2年成人式実行委員会 副実行委員長	

※敬略称、順不同、令和3年9月14日現在

②審議経過

①審議会

会議名	開催日	審議内容等
諮問・第1回審議会	令和元年 11月21日	委員委嘱、長期総合計画策定の諮問、策定方針、市民・企業アンケート結果
第2回審議会	12月26日	第6次長期総合計画基本構想策定の流れ、第5次長期総合計画の総括、データでみる塩竈市のすがた、第6次長期総合計画の構成
第3回審議会	令和2年 2月12日	「今後の塩竈の方向性」についての意見交換（グループワーク）
第4回審議会	8月31日	第6次長期総合計画の構成及び期間、基本構想骨子案
第5回審議会	11月13日	第6次長期総合計画基本構想素案
第6回審議会	令和3年 1月22日	第6次長期総合計画基本構想素案
第7回審議会	5月14日	第6次長期総合計画基本構想素案、次世代枠分科会の設置、市外居住者Webアンケートの概要、未来の100の暮らしワークショップ報告書
第8回審議会	7月26日	第6次長期総合計画基本構想素案、前期基本計画素案、次世代枠分科会、パブリックコメントの実施
第9回審議会	9月14日	第6次長期総合計画基本構想素案、前期基本計画素案、各種指標の設定、答申文案
答申	9月16日	第6次長期総合計画(案)の答申

②次世代枠分科会

会議名	開催日	審議内容等
第1回分科会	令和3年 5月31日	次世代枠分科会の役割についての意見交換
第2回分科会	6月22日	次世代向けパンフレットの内容
第3回分科会	7月15日	都市像案、重点プロジェクトの考え方、次世代向けパンフレットのデザイン
第4回分科会	10月14日	次世代向けパンフレットのデザイン
第5回分科会	11月10日	次世代向けパンフレットのデザイン
第6回分科会	令和4年 3月30日	次世代向けパンフレットのデザイン

③諮問

政 第 1 1 3 号
令和元年11月21日

塩竈市長期総合計画審議会
会長 柳井 雅也 殿

塩竈市長 佐藤 光樹

第6次塩竈市長期総合計画の策定について（諮問）

今後の塩竈市のまちづくりの基本方向を明らかにする第6次塩竈市長期総合計画を策定したいので、塩竈市長期総合計画審議会設置条例（昭和45年条例第3号）第2条の規定により貴審議会の意見を求めます。

諮 問 理 由

これまで本市では、平成23年度から令和2年度を計画期間とする第5次長期総合計画に基づき、「おいしさと笑顔がつどう みなとまち 塩竈」を目指す都市像に掲げ、その実現に向けて取り組んでまいりました。

今後は、少子高齢化に伴う人口構造の変化や、情報技術の進展をはじめとした社会情勢の急速な変化、持続可能な社会の構築に向けた国際的な視点（SDGs）など、本市を取り巻く様々な環境の変化を的確に把握し、新しい時代に対応したまちづくりに取り組むことが求められます。

本市の歴史や文化、産業、都市機能などを最大限に活かし、将来の望ましい姿やそのための指針を明らかにする「第6次塩竈市長期総合計画」の策定について諮問するものです。

④答申

令和3年9月16日

塩竈市長 佐藤 光樹 様

塩竈市長長期総合計画審議会

会長 柳井 雅也

『第6次塩竈市長長期総合計画』(案)について(答申)

塩竈市長長期総合計画審議会設置条例(昭和45年1月23日条例第3号)第2条に基づき、令和元年11月21日付け政第113号で本審議会に諮問された『第6次塩竈市長長期総合計画』の策定について、慎重に審議を行って策定しましたので、下記のとおり答申します。

記

1. 「第6次塩竈市長長期総合計画」(案)について

別添のとおりです。

2. 審議経過について

当審議会は、令和元年11月から9回にわたる審議を重ねてきました。この間、第5次塩竈市長長期総合計画の総括、基礎調査、市民や企業へのアンケート、市民まちづくりワークショップや地区別懇談会、企業・市民活動団体などへのヒアリング、パブリックコメントなどを実施し、基本構想と前期基本計画という構成を基本として、今後のまちづくりの方向性について検討を行いました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、審議会を開催できない期間もありましたが、感染防止に努めながら丁寧な議論を積み重ね、合意形成を心がけました。

3. 基本構想について

(1) 目指す都市像について

第6次長期総合計画では、目指す都市像を『海と社に育まれる楽しい塩竈』としています。

これまで塩竈市は、海をはじめとした自然、そして豊かな歴史や文化を背景として、人々の暮らしが育まれ、魅力ある港町として発展してきました。

また、市民まちづくりワークショップでまとめられた「塩竈らしい100の暮らし」においても、自然や歴史・文化などの地域特性を生かしたさまざまな暮らしが提案されました。

どの暮らしを見ても「楽しみながらこれからも塩竈で暮らしていきたい」という市民の方々の想いが伝わってきます。

このことから、まちの至るところに「塩竈らしい楽しい暮らし」が広がり、市民の方々の笑顔があふれる塩竈が未来に続いていくことを切に願って、目指す都市像として掲げたものです。

(2) 8つのまちづくりの目標について

第6次長期総合計画の基本構想では、「子ども」「福祉」「生活」「産業」「交流」「文化」「協働」「浦戸諸島」の8つの分野を設定し、「まちづくりの目標と方向性」、そして、前期基本計画につながる「施策の柱」を定めました。

これは、第3回目の審議会において、「塩竈の個性や大切にしたいもの」や「望ましい今後の塩竈の方向性」について議論を行い、そこで出された意見を集約したものです。

また、「未来に続く8つの塩竈物語」には、今後も大切にしていきたいまちの姿を描いています。まちづくりの方向性に沿った施策に着実に取り組んでいただき、未来に向けてこの物語が紡がれていくことを期待しています。

(3) 将来人口について

令和13年の将来人口を50,000人と設定しました。

将来人口については、国立社会保障・人口問題研究所の推計方法を参考としながら、住民基本台帳人口を基準に推計を行いました。

推計結果では、目標年度である令和13年の人口は約48,000人となり、令和3年と比較すると約5,000人が減少し、特に、年少人口と生産年齢人口の減少が大きいことが見込まれました。

このことから、「子育て世帯の移住・定住の促進」と「子どもを産み育てやすい環境を整える」ことを軸とした施策を展開していくことで、人口減少を抑制することとし、令和13年の将来人口を50,000人と設定しています。

また、これまでの総合計画の将来人口は、国勢調査人口を基準にして設定していたことから、5年ごとの検証とならざるを得ませんでした。本計画では、着実な進行管理に結び付けていくため、住民基本台帳人口を基準とすることで毎年度検証できるよう改めています。

全国的にも人口減少が進んでいく中、将来人口50,000人の確保に向けては、厳しい道のりが続くと思われまます。

一つ一つの施策を着実に実施していくこと、また、より広い視野を持ち、分野横断的に施策を展開するなど、たゆまぬ努力により、少しずつ道が開かれていくものと信じています。

4. 前期基本計画について

(1) 前期基本計画の策定にあたって

第6次長期総合計画では、基本計画を前期と後期に分割し、計画期間をそれぞれ5年としています。

これまでの長期総合計画においては、基本構想に合わせ、基本計画の期間を10年としていましたが、5年とすることにより、変化の著しい社会情勢にも速やかに対応できるものと考えています。

また、前期基本計画は、持続可能な開発目標（SDGs）や、地方創生、市民まちづくりワークショップから生まれた「塩竈らしい100の暮らし」など、幅広い視点を取り入れて策定を行っています。

さらに、基本構想で定める8つのまちづくりの目標に基づく具体的な施策とともに、横断的な視点で施策を展開する「しおがま未来創生プロジェクト」を定め、都市像の実現を目指すものです。

(2) しおがま未来創生プロジェクトについて

「しおがま未来創生プロジェクト」を、前期基本計画の各施策を進めるにあたっての原動力と位置付け、市民の方々に「すみよさ」「よろこび」「やりがい」「にぎわい」を感じていただき、最終的には「塩竈への愛着と誇り」を高めていくことを目指しています。

市民の視点である「塩竈らしい100の暮らし」と、国における「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標を重ね合わせ、施策の好循環を意識しながら、4つのプロジェクトを構築しており、各分野において特に重点的に取り組む施策と連動しています。

本プロジェクトを推進していくためには、施策に基づく具体的な事業を構築する際にも、この考え方を強く意識することが重要であり、今後の実施事業計画の策定に期待します。

(3) 進行管理について

施策の進行管理を適切に行うため、しおがま未来創生プロジェクトには、「重要目標達成指標」と「数値目標」を、前期基本計画の主要な施策については、「成果指標」を設定しています。

本計画の着実な推進に向けて、成果指標に基づいて施策の実施状況の定期的な評価を行い、改善に結び付けていくための仕組みづくりが不可欠です。

また、これらの指標をはじめとした総合計画の達成状況については、市民の方々にも広く周知していくことも重要です。

まちの課題を共有し、より良いまちにしていけることは何かを市民の方々にも認識いただくことで、「協働・共創のまちづくり」に結び付けていくものと考えています。

(3) 市民参加

①市民まちづくりワークショップ

「塩竈が塩竈らしくここでしかなし得ないかたちで続いていくこと」を指針として、これからの塩竈での暮らしに直結する6つのテーマを設定し、市民まちづくりワークショップを開催しました。

参加者から提案されたさまざまな暮らしは、『楽しみながらこれからも塩竈で暮らしていきたい』という思いにあふれた「塩竈らしい100の暮らし」としてまとめられました。

①開催概要

回数	開催日	テーマ
第1回	令和2年 10月24日	住環境 「暮らし方、塩竈の好き・嫌い」
第2回	11月26日	子育て・教育 「多世代で守られ、愛され、慈しまれる子供の暮らし」
第3回	12月17日	食・産業 「二十四節気の港暮らし」
第4回	令和3年 1月14日	福祉 「100歳まで生き生き暮らす」
第5回	1月28日	歴史・文化 「趣が増す塩竈の暮らし」
第6回	3月18日	編集会議「100の暮らし」を整える

②「塩竈らしい100の暮らし」

毎回、グループごとにテーマに沿った「塩竈らしい暮らし」を提案し、それを基にイラストレーターがその場でイラストを描いて「暮らしのカード」を作成しました。

最終回の編集会議では、参加者による投票で「塩竈らしい100の暮らし」を選びました。

■ワークショップの様子



■暮らしのカードの一例



■編集会議での100の暮らしの選考風景



■参加者の声

- メンバーとの話し合いから次のアイデアが浮かぶなど、楽しみが増えた。
- ここから、子どもたちがたくさん楽しめるような塩竈の未来がつくられると良いと思った。
- いろいろな人の意見を聞き、塩竈の何気ない風景や日常の細かい良いところに気づくことができた。
- 塩竈に住んでいても知らないことがたくさんあり、一方でメンバーに知ってもらえる機会にもなった。
- 話し合ったことを伝えることが大事。いろいろな人が自分の気づきを伝えていってくれたら良いと思う。

②地区別懇談会

地区名	開催日	参加人数
西部地区町内会連絡協議会	令和2年 2月14日	45名
東部地区町内会連絡協議会	2月20日	7名
南部地区町内会連絡協議会	2月22日	15名
北部地区町内会連絡協議会	7月 4日	32名
浦戸地区 (寒風沢・朴島) (桂島・石浜・野々島)	7月 9日 7月17日	89名

③事業者ヒアリング

実施期間	令和2年9月～令和3年3月
ヒアリング事業者数	39社(水産加工業、浅海養殖漁業、小売業等)
ヒアリング項目	今後のまちづくりについて など

④市民活動団体ヒアリング

実施期間	令和3年2月
ヒアリング団体数	7団体(ボランティア団体、生涯学習団体等)
ヒアリング項目	これまでの活動内容や今後の活動について など

⑤分野別リーダーヒアリング(市役所若手職員向け講演会)

実施日	令和2年11月26日
実施場所	マリゲート塩釜 マリンホール
講師	松田公太氏(塩竈市生まれ、タリーズコーヒージャパン創業者)
演題	「すべては一杯のコーヒーから ～日々のチャレンジが未来をつくる～」

⑥塩釜高校とのまちづくり意見交換会

実施日(参加生徒数)	令和元年11月8日(18名) 令和2年7月20日(17名) 令和3年7月27日(19名)
実施場所	宮城県塩釜高等学校 西キャンパス
意見交換項目	施設整備、部活動、生徒会活動、まちづくりについて など

⑦パブリックコメント

塩竈市パブリックコメント手続実施要綱に基づいて下記のとおり実施しました。

公表計画案	第6次塩竈市長期総合計画(素案)
公表方法	①下記公共施設での計画(素案)と関連資料の閲覧 塩竈市役所(本庁舎 情報公開コーナー)、市民図書館、公民館、ふれあいエスプ 塩竈、塩釜ガス体育館、保健センター ②市ホームページへの掲載 ③塩竈市公式LINEアカウントを通じて登録者に周知(2回)
実施期間	令和3年7月28日～8月16日(20日間)
提出意見等	21件

⑧策定情報の提供

①広報紙(令和元年10月～令和4年3月)

「シリーズ長期総合計画」として、令和元年10月から令和4年3月の間に、計画策定の検討状況や計画案の概要などを17回にわたって随時掲載しました。

②ホームページ(令和元年11月～)

長期総合計画のページの中に第6次塩竈市長期総合計画のコーナーを設け、審議会での審議状況や市民まちづくりワークショップの活動内容、市の若手職員プロジェクトチームの取組状況などを掲載しました。

⑨未来のしおがま絵画コンクール

対象者	市内小・中学校の児童・生徒
募集期間	令和3年7月～8月(夏休み期間)
応募状況	小学校 低学年の部：81点 高学年の部：49点 中学校の部：19点
作品展示	(期間)令和3年11月25日～12月5日 (場所)ふれあいエスプ塩竈

■応募全149作品の中から市長賞に選ばれた作品



【小学校低学年の部】
月見ヶ丘小学校3年 坂内 葵音さん



【小学校高学年の部】
第二小学校4年 成田 咲夏さん



【中学校の部】
第三中学校3年 山崎 結音さん

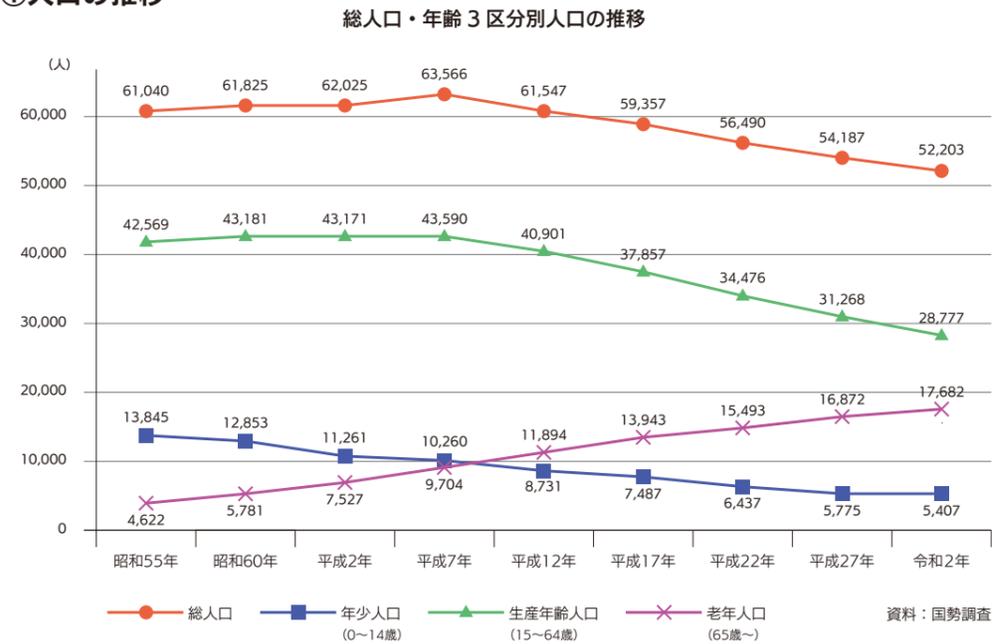
(4) 市議会

議会への報告・審議経過

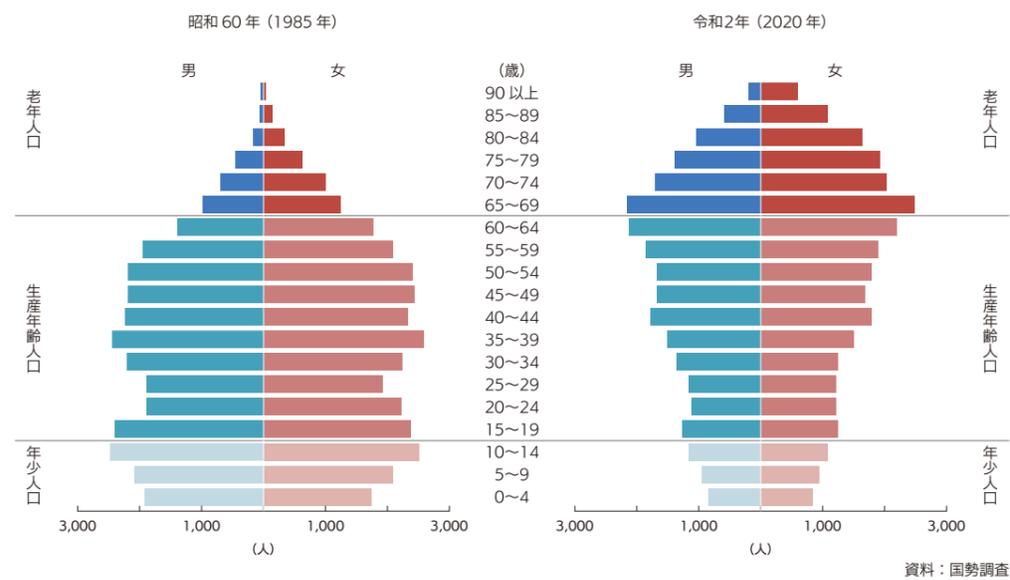
開催会議名	開催内容等	開催日
民生常任委員協議会	第5次長期総合計画の取組状況等について	令和元年5月21日
産業建設常任委員協議会	第5次長期総合計画の取組状況等について	5月22日
総務教育常任委員協議会	第5次長期総合計画の取組状況等について	5月23日
総務教育常任委員協議会	第6次長期総合計画策定に向けたアンケート調査結果の概要及び今後の予定について	9月19日
民生常任委員協議会	第6次長期総合計画策定に向けたアンケート調査結果の概要及び今後の予定について	9月19日
産業建設常任委員協議会	第6次長期総合計画策定に向けたアンケート調査結果の概要及び今後の予定について	9月20日
総務教育常任委員協議会	第5次長期総合計画総括の中間報告について	11月13日
民生常任委員協議会	第5次長期総合計画総括の中間報告について	11月14日
産業建設常任委員協議会	第5次長期総合計画総括の中間報告について	11月15日
総務教育常任委員協議会	第6次長期総合計画策定に向けた取組状況について	令和2年1月28日
民生常任委員協議会	第6次長期総合計画策定に向けた取組状況について	1月29日
産業建設常任委員協議会	第6次長期総合計画策定に向けた取組状況について	1月31日
総務教育常任委員会	第6次長期総合計画について	3月 9日
総務教育常任委員協議会	第6次長期総合計画策定に向けた取組状況等について	5月18日
民生常任委員協議会	第6次長期総合計画策定に向けた取組状況等について	5月19日
産業建設常任委員協議会	第6次長期総合計画策定に向けた取組状況等について	5月22日
総務教育常任委員協議会	第6次長期総合計画策定に向けた取組状況等について	8月19日
民生常任委員協議会	第6次長期総合計画策定に向けた取組状況等について	8月20日
産業建設常任委員協議会	第6次長期総合計画策定に向けた取組状況等について	8月21日
9月定例会	塩竈市市政に係る重要な計画の議決等に関する条例の一部を改正する条例について	9月7日(提案) 9月25日(議決)
総務教育常任委員協議会	第6次長期総合計画策定に向けた取組状況等について	11月18日
民生常任委員協議会	第6次長期総合計画策定に向けた取組状況等について	11月19日
産業建設常任委員協議会	第6次長期総合計画策定に向けた取組状況等について	11月20日
総務教育常任委員協議会	第6次長期総合計画策定に向けた取組状況等について	令和3年1月28日
民生常任委員協議会	第6次長期総合計画策定に向けた取組状況等について	1月29日
産業建設常任委員協議会	第6次長期総合計画策定に向けた取組状況等について	2月 1日
総務教育常任委員協議会	第6次長期総合計画策定に向けた取組状況等について	5月17日
民生常任委員協議会	第6次長期総合計画策定に向けた取組状況等について	5月18日
産業建設常任委員協議会	第6次長期総合計画策定に向けた取組状況等について	5月21日
総務教育常任委員会	第6次長期総合計画について	7月29日
総務教育常任委員協議会	第6次長期総合計画策定に向けた取組状況等について	8月17日
民生常任委員協議会	第6次長期総合計画策定に向けた取組状況等について	8月20日
産業建設常任委員協議会	第6次長期総合計画策定に向けた取組状況等について	8月23日
総務教育常任委員会	第6次長期総合計画について	9月 6日
9月定例会	第6次塩竈市長期総合計画基本構想及び前期基本計画を定めることについて	9月27日(提案)
塩竈市長期総合計画特別委員会	第6次塩竈市長期総合計画基本構想及び前期基本計画について	令和3年9月27日 10月18日 11月 5日 11月19日 11月30日 12月13日
12月定例会	第6次塩竈市長期総合計画基本構想及び前期基本計画議決	12月22日

(1) 人口の動向

①人口の推移

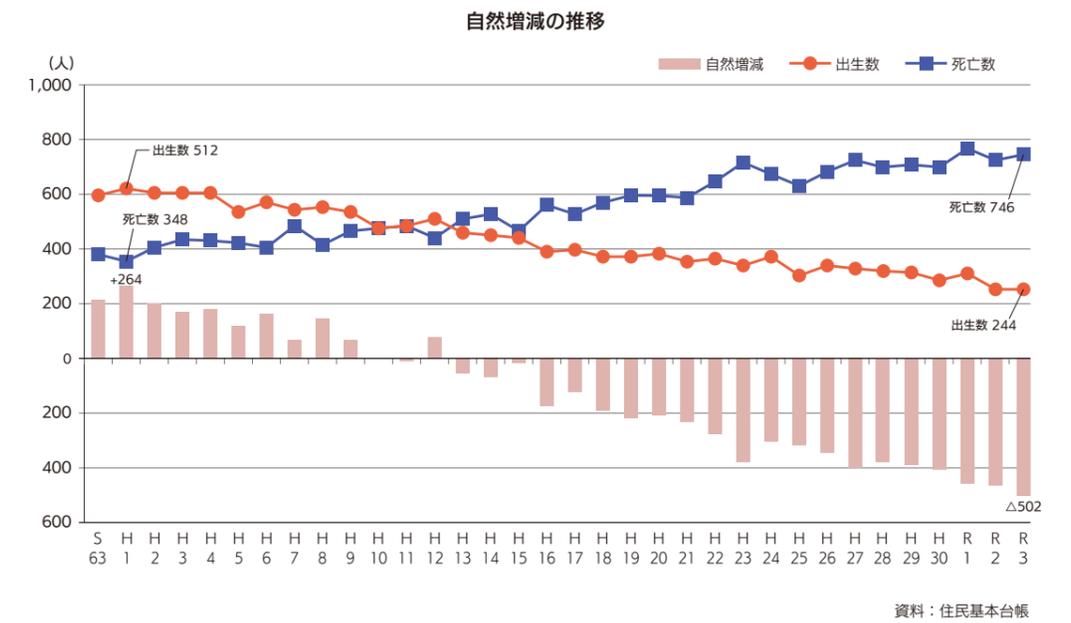


②人口ピラミッドの状況

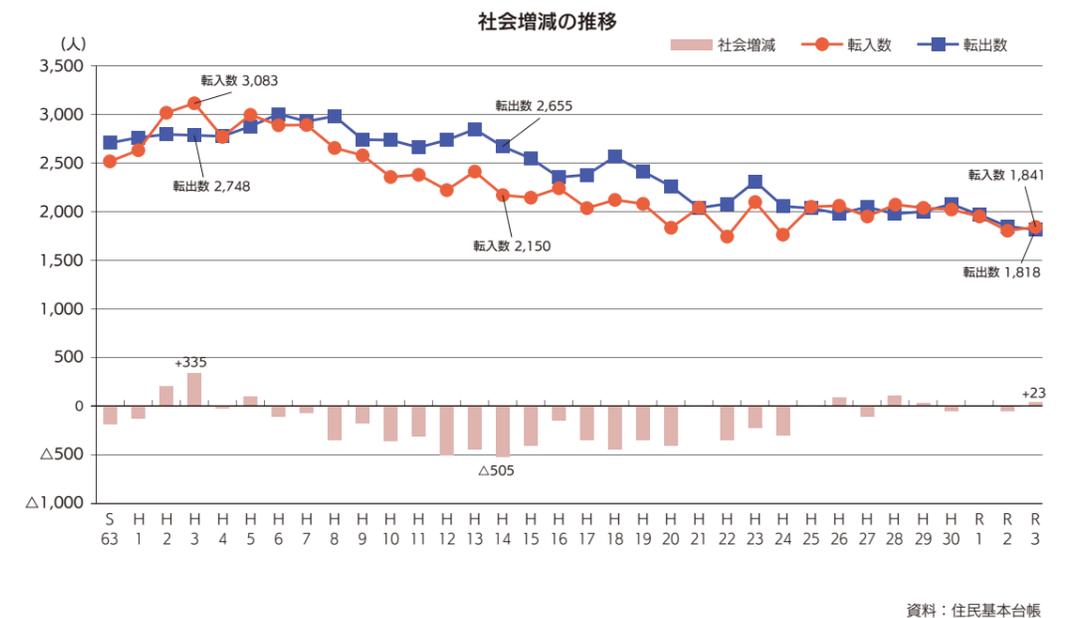


③出生、死亡及び移動(転入及び転出)の推移

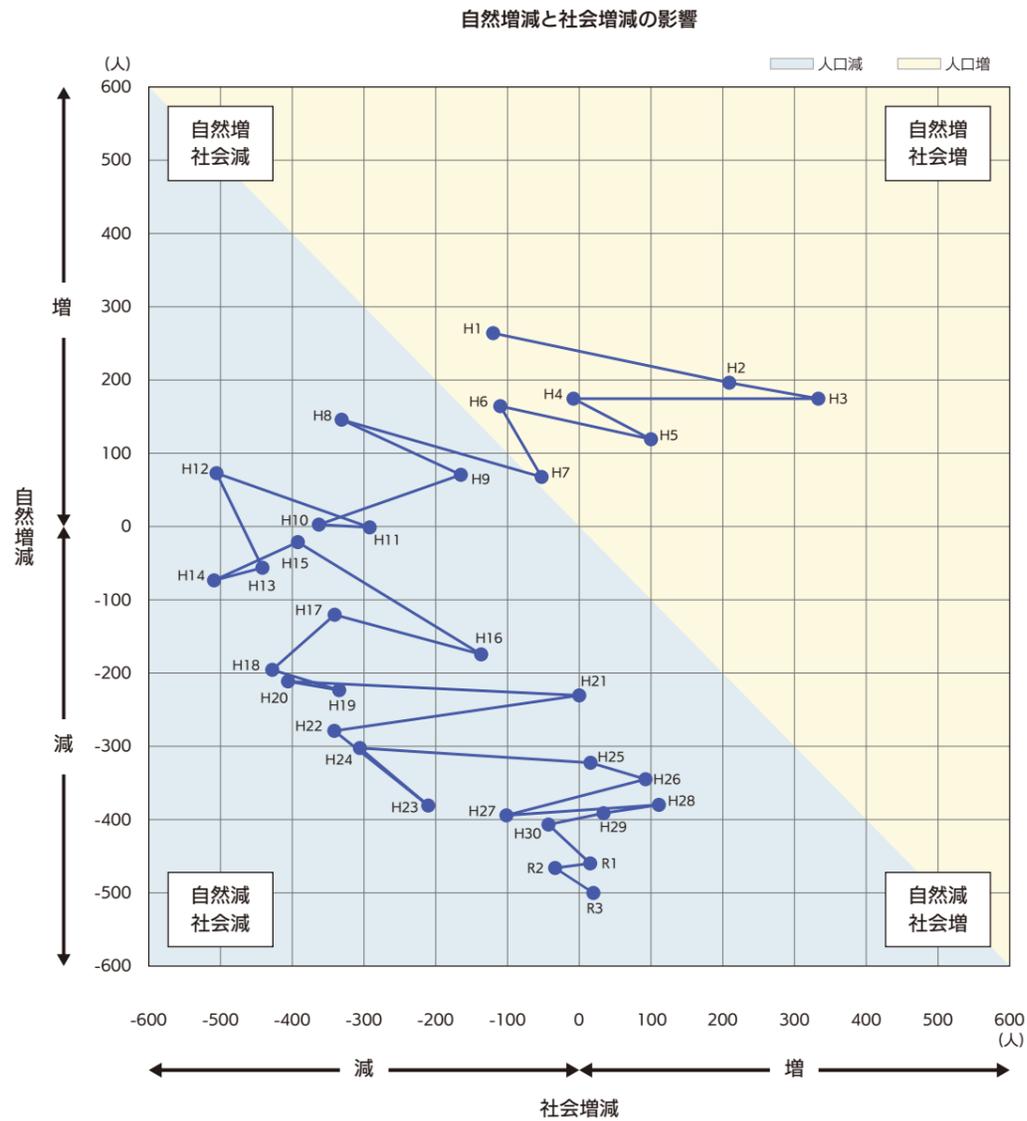
①自然増減の推移(出生、死亡の推移)



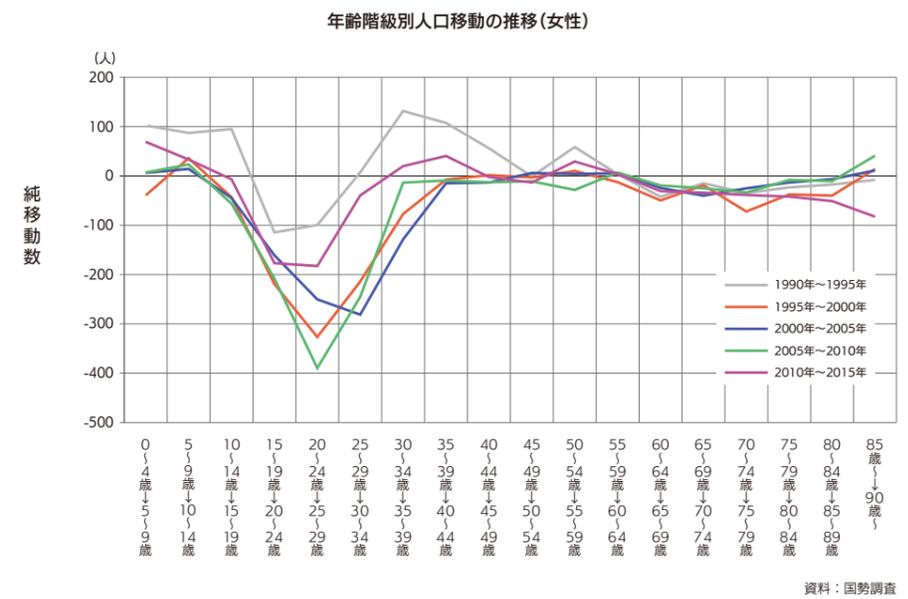
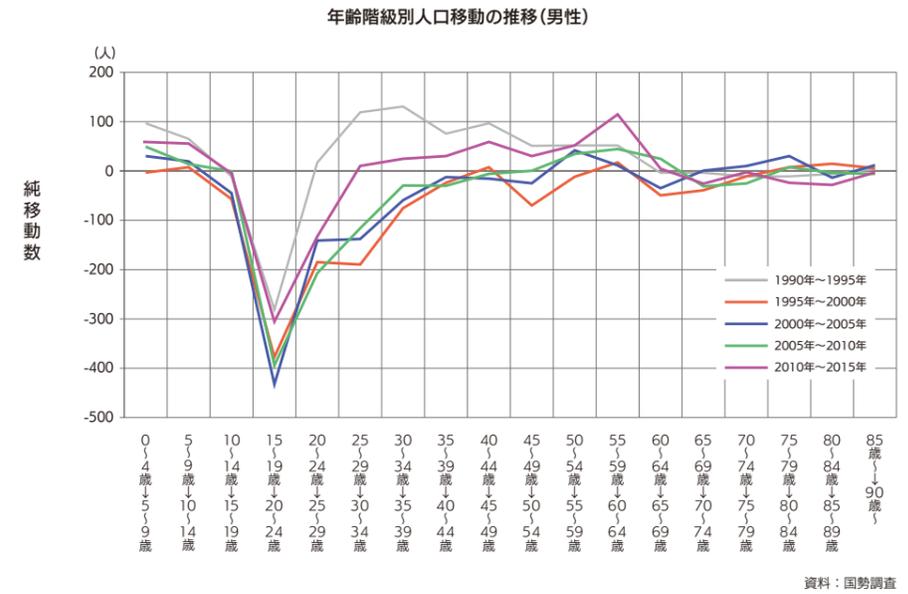
②社会増減の推移(転入、転出の推移)



④総人口の推移に与えてきた自然増減と社会増減の影響

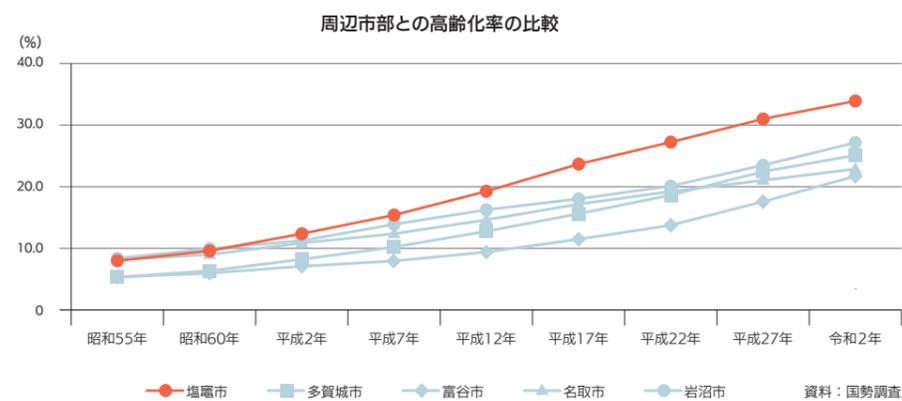
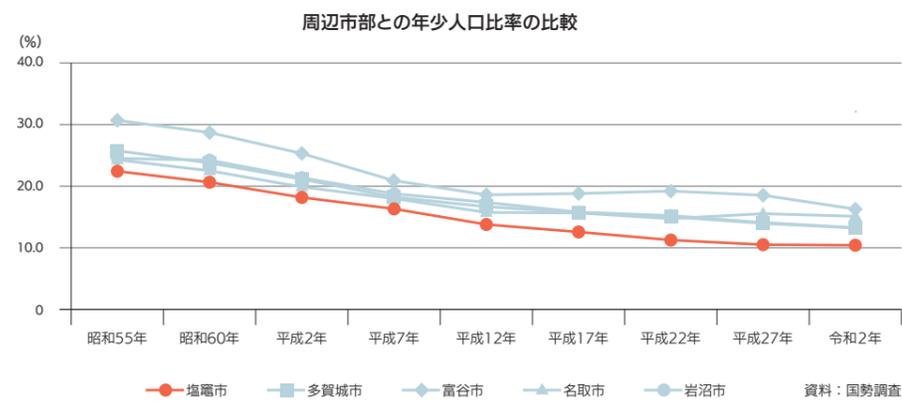
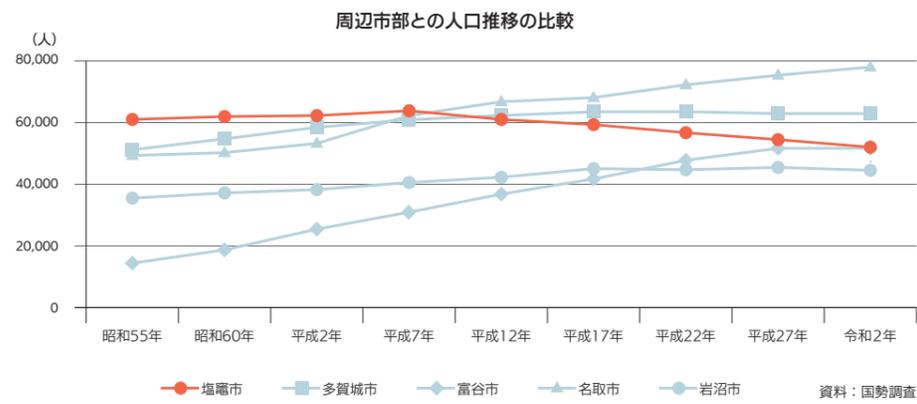


⑤年齢階級別の人口移動の状況



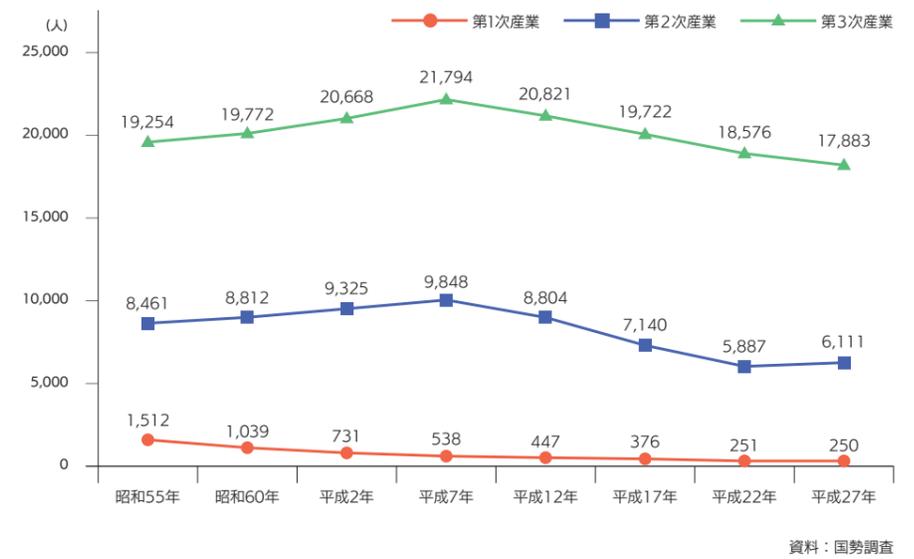
※純移動数は、国勢調査の人口と各期間の生残率を用いて推定した値。例えば、2005→2010年の0～4歳→5～9歳の純移動数は、下記のように推定されます。
 $2005 \rightarrow 2010 \text{年の} 0 \sim 4 \text{歳} \rightarrow 5 \sim 9 \text{歳の純移動数} = 2010 \text{年の} 5 \sim 9 \text{歳} \text{①} - 2005 \text{年の} 0 \sim 4 \text{歳人口} \times 2005 \rightarrow 2010 \text{年の} 0 \sim 4 \text{歳} \rightarrow 5 \sim 9 \text{歳の生残率} \text{②}$
 生残率は、厚生労働省大臣官房統計情報部「都道府県別生命表」より求めています。②は人口移動がなかったと仮定した場合の人口を表しており、実際の人口①から②を差し引くことによって純移動数が推定されます。

⑥ 仙台都市圏市部との比較

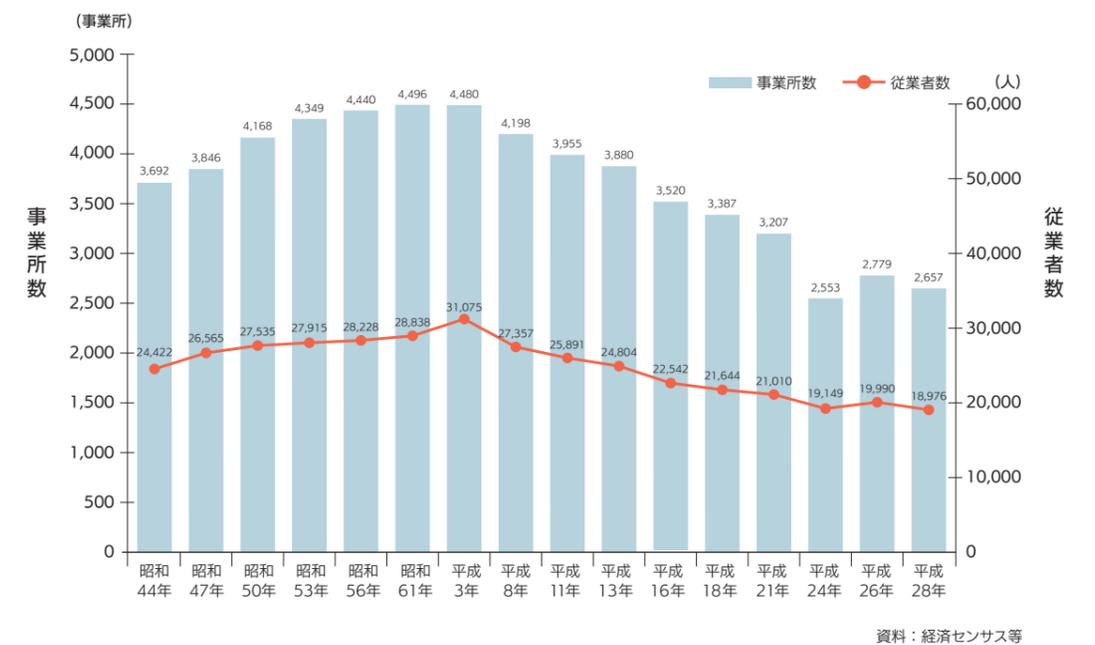


(2) 産業の動向

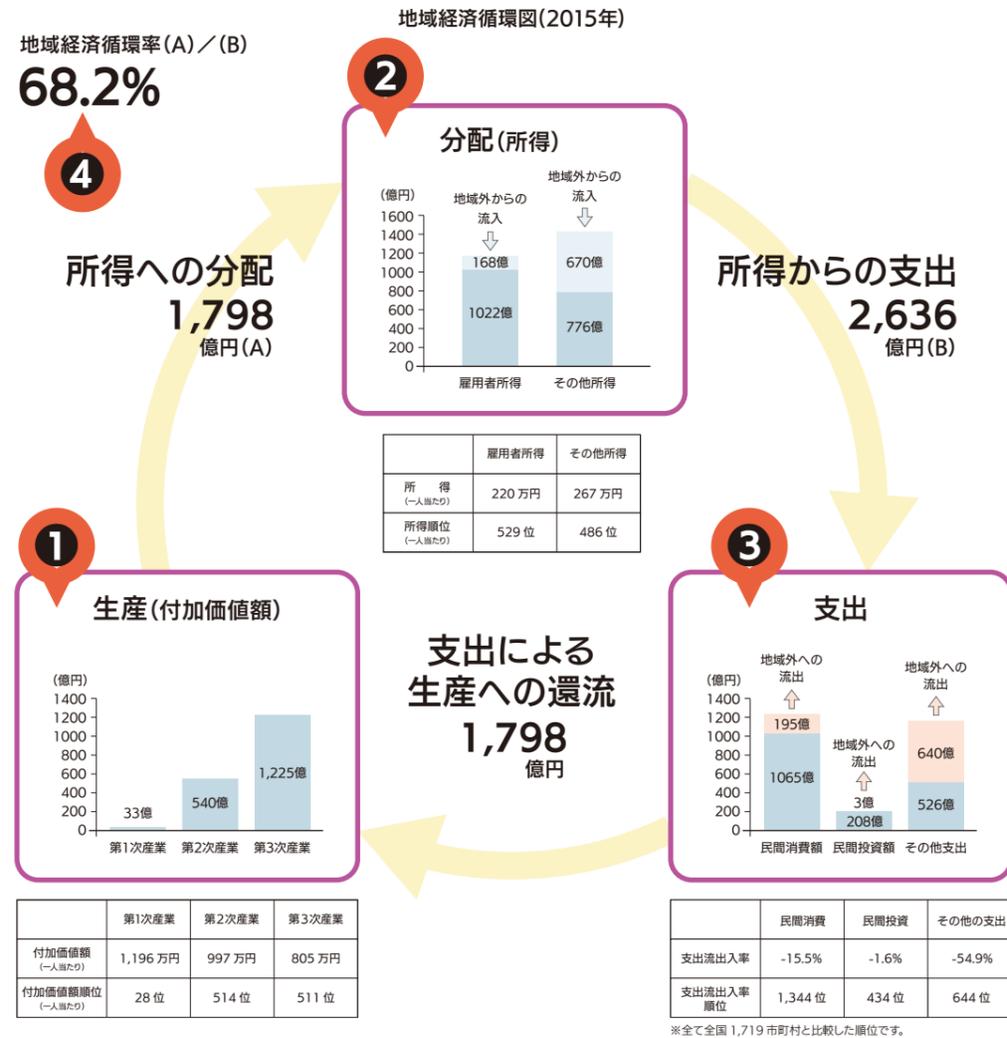
① 産業別就業人口の推移



② 民営事業所数と従業者数の推移



⑥地域経済循環図からみる経済循環の状況



【地域経済循環図から見る本市の特徴】

- 第1次・第2次・第3次産業で合計1,798億円の付加価値が生み出されています。特に第1次産業での1人当たりの付加価値額が全国でも上位となっています。
- 生み出された付加価値は、所得として分配されます。雇用者所得・その他所得とも全国平均よりも上位となっており、その他所得において、地域外からの流入した所得の割合が高い結果となっています。
- 支出においては、民間消費額の支出流出率順位で全国と比較し下位となっており、市内での消費を促す取組が必要と考えられます。また、その他支出において地域外へ流出している割合が高くなっています。
- 地域経済循環率は68.2%と100%を下回っており、他地域から流入する所得に対する依存度が高い傾向となっています。なお、地域経済循環率は値が高いか低いかで地域を評価するものではありません。

(3) 市民アンケート

「第6次長期総合計画」を策定するにあたり、市民の皆さんのまちづくりに対する考え方を把握し、意見を計画へ反映させるため、令和元年7月にアンケート調査を実施しました。

①実施概要

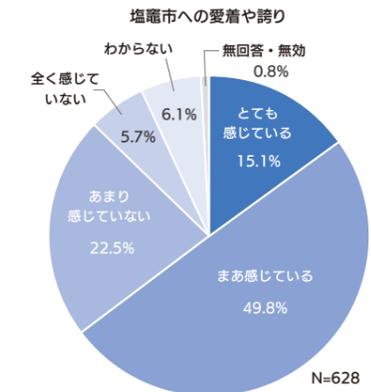
調査対象	18歳以上の市民を対象に、無作為抽出した2,000人(年代別同数)
配布数	2,000票
調査方法	郵送による配布、郵送及びインターネットによる回収
回収状況	628票(31.4%)

②調査結果概要

①塩竈市への愛着や誇り

塩竈市への愛着や誇りについて、「まあ感じている」が49.8%と最も多く、次いで「あまり感じていない」が22.5%、「とても感じている」が15.1%となっています。

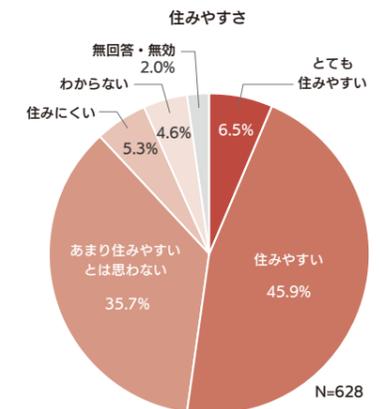
「とても感じている」と「まあ感じている」を合わせると64.9%が塩竈市への愛着や誇りを感じています。



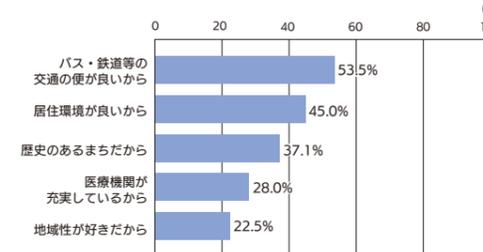
②住みやすさ

「とても住みやすい」「住みやすい」の合計は52.4%であり、その理由は「バス・鉄道等の交通の便が良いから」が最も多く、次いで「居住環境が良いから」、「歴史のあるまちだから」となっています。

「あまり住みやすいとは思わない」と「住みにくい」の合計は41.0%であり、その理由は「娯楽・遊戯施設が少ない」が最も多く、次いで「買い物するのに不便」、「公共料金が高い」、「バス・鉄道等の交通の便が悪い」となっています。



住みやすいと思う主な理由(TOP5)



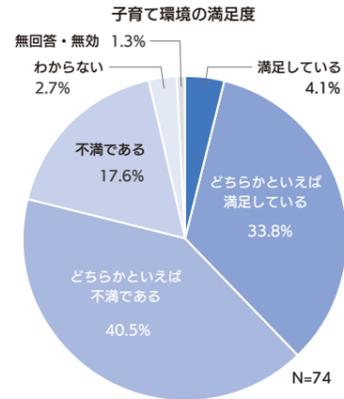
住みやすいと思わない主な理由(TOP5)



③子育て環境の満足度

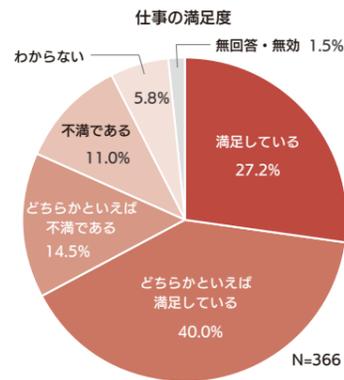
「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせると38%となりました。

一方で、「不満である」と「どちらかといえば不満である」を合わせると約58%となり、6割近くの方が子育て環境に不満を抱いている状況となっています。



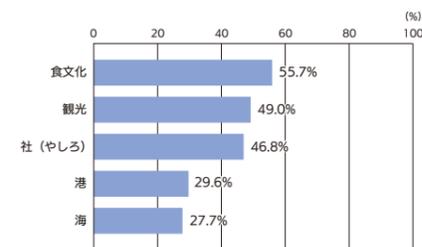
④仕事の満足度

仕事の満足度として、「業種・職種」、「雇用形態」、「やりがい」、「賃金面」の4項目の満足度を調査した結果、平均で「満足している」「どちらかといえば満足している」の合計が67%となっています。

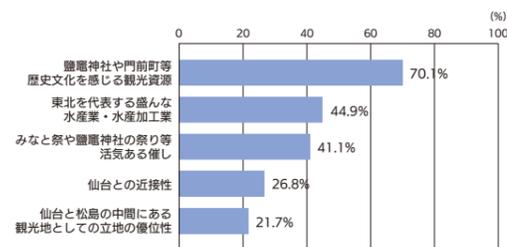


⑤その他の主な調査結果

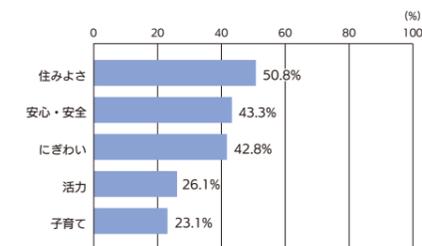
まちづくりのキーワード(地域資源 TOP5)



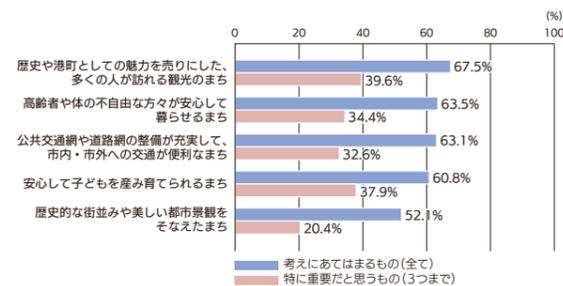
塩竈の魅力(TOP5)



まちづくりのテーマ(TOP5)



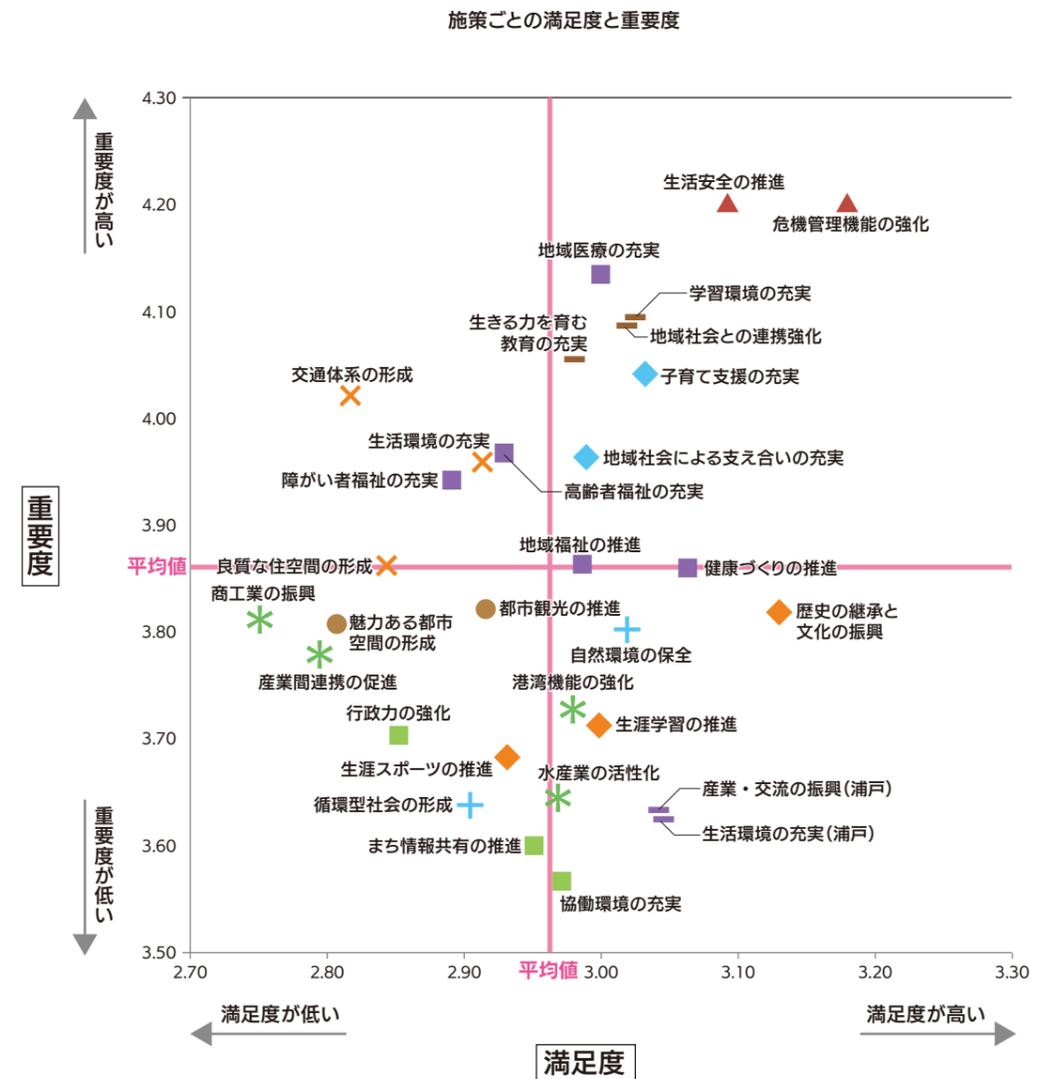
目指すまちの将来像(TOP5)



⑥施策ごとの満足度と重要度

これまでの市の取組を「満足～不満である」、「重要～重要でない」の5段階でそれぞれ回答いただき、その結果を満足度×重要度マトリクスで評価・分析したものです。

重要度は高いが満足度が低い項目は、「交通体系の形成」、「生活環境の充実」、「高齢者福祉の充実」、「障がい者福祉の充実」、「良質な住空間の形成」であり、早期に解決すべき課題となっています。



(4) 企業アンケート

「第6次長期総合計画」を策定するにあたり、企業の皆さんのまちづくりに対する考え方を把握し、意見を計画へ反映させるため、令和元年7月にアンケート調査を実施しました。

①実施概要

調査対象	商工会議所に加入している事業所のうち、6名以上の従業員が在籍する市内事業所315社を抽出。
配布数	315票
調査方法	郵送による配布・回収
回収状況	148票(47.0%)

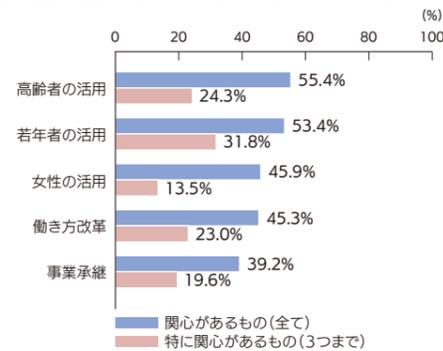
②調査結果概要

①今後の企業活動において関心のある項目

地域経済の活性化として、今後の企業活動において関心のある項目は、「高齢者の活用」が最も多く、次いで「若年者の活用」、「女性の活用」となっています。

特に関心のある項目は、「若年者の活用」が最も多く、次いで「高齢者の活用」、「働き方改革」となっています。

今後の企業活動において関心のある項目(TOP5)

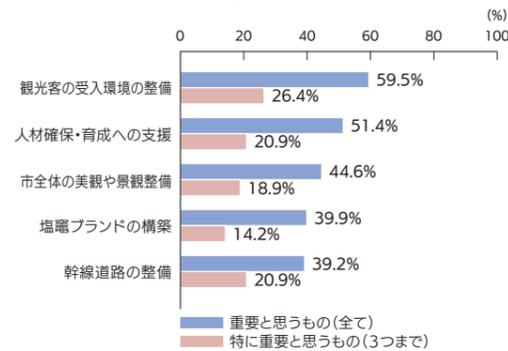


②行政が取り組むべき分野

産業振興による本市の地方創生を図るうえで、行政の取組で重要だと思う分野は、「観光客(外国人旅行者含む)の受入環境の整備」が最も多く、次いで「人材確保・育成への支援」、「市全体の美観や景観整備」となっています。

特に重要だと思う分野は、「観光客(外国人旅行者含む)の受入環境の整備」が最も多く、次いで「人材確保・育成への支援」、「幹線道路の整備」となっています。

行政が取り組むべき分野(TOP5)



(5) 市外居住者WEBアンケート

「第6次長期総合計画」を策定するにあたり、市外居住者の本市に対する関心などを把握し、移住定住施策等の検討に向けた基礎資料として活用するため、令和3年1月から2月にアンケート調査を実施しました。

①実施概要

調査対象	アンケートモニター(約600万人)の中から、県内在住の市外居住者のうち、本市に「住んだことがある」または「訪れたことがある」方を抽出し、500名から回答いただいたもの。
調査方法	WEBアンケート
回収状況	500票(住んだことがある方159票、訪れたことがある方341票)

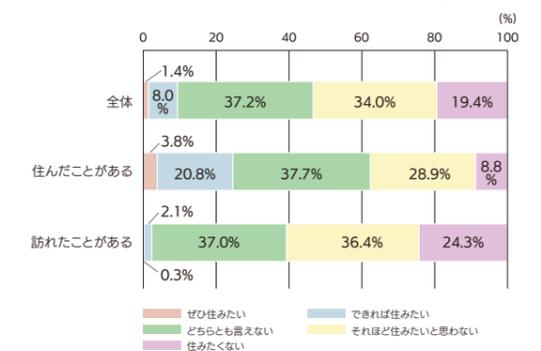
②調査結果概要

①塩竈市への移住について

全体として、「ぜひ住みたい」、「できれば住みたい」を合わせた移住意向は9.4%であり、「どちらとも言えない」、「それほど住みたいと思わない」の比率が高くなっています。

『住んだことがある方』では、「ぜひ住みたい」、「できれば住みたい」を合わせると24.6%でしたが、『訪れたことがある方』では同じ項目で2.4%と低い結果となっています。

本市への移住意向について

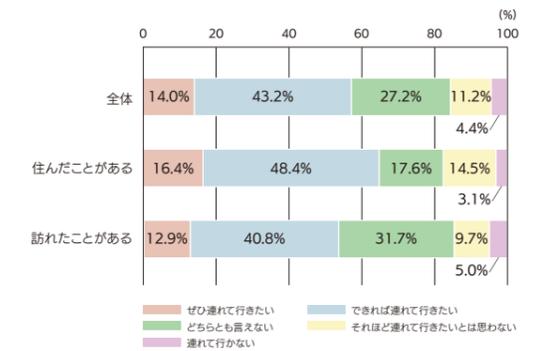


②塩竈市への観光について

全体として、「できれば連れて行きたい」の比率が高くなっています。

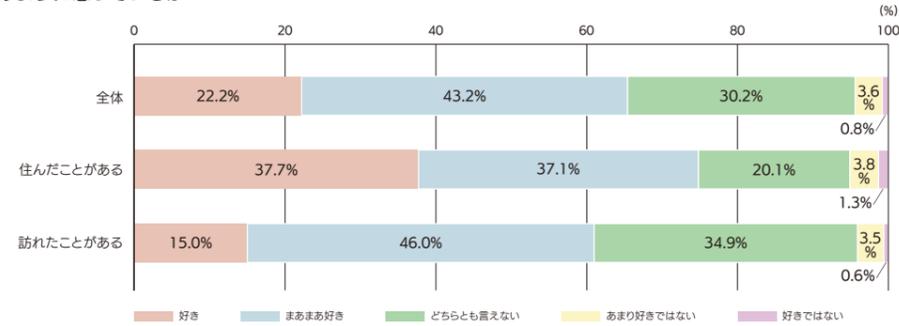
「ぜひ連れて行きたい」、「できれば連れて行きたい」を合わせると、『住んだことがある方』は64.8%、『訪れたことがある方』では53.7%となっています。

塩竈市への観光について

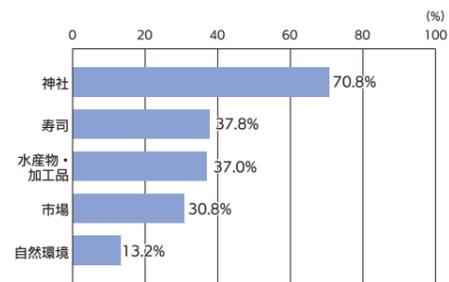


③ その他の主な調査結果

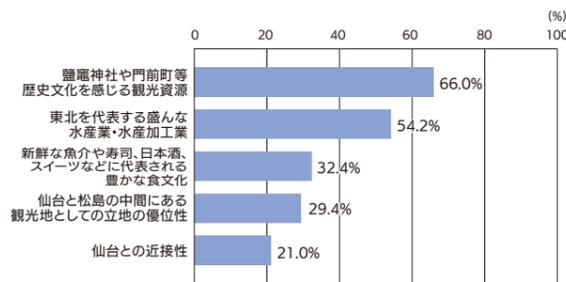
塩竈市をどのように思っているか



塩竈市の地域資源のうちあなたが好きなもの(TOP5)



塩竈市の「強み・魅力」と思うもの(TOP5)



塩竈市に抱いているイメージ



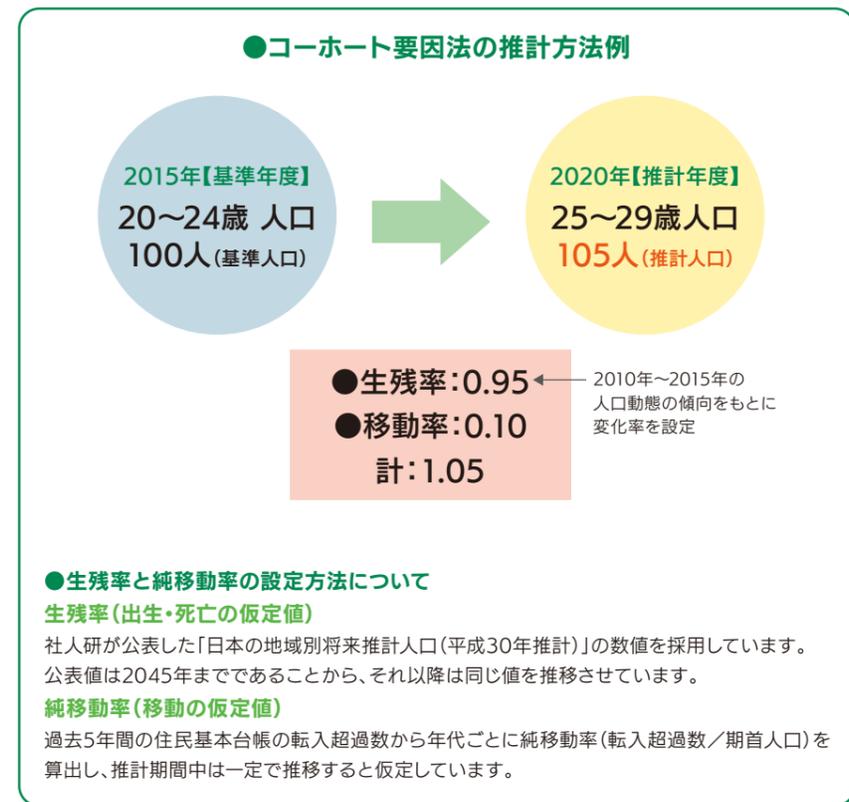
(6) 将来人口推計

① 将来人口の推計方法

① 推計手法

国立社会保障・人口問題研究所(社人研)の将来人口の推計手法であり、出生・死亡・移動の人口変動の要因別に仮定値を設定する「コーホート要因法」により推計しました。

「コーホート要因法」は、同じ期間に生まれた人々の集団(コーホート)について、「自然増減(生残率)」「出生と死亡」及び「純移動率」「転出入」という二つの「人口変動要因」それぞれの将来値を仮定し、それに基づいて将来人口を推計する方法です。



② 基準人口

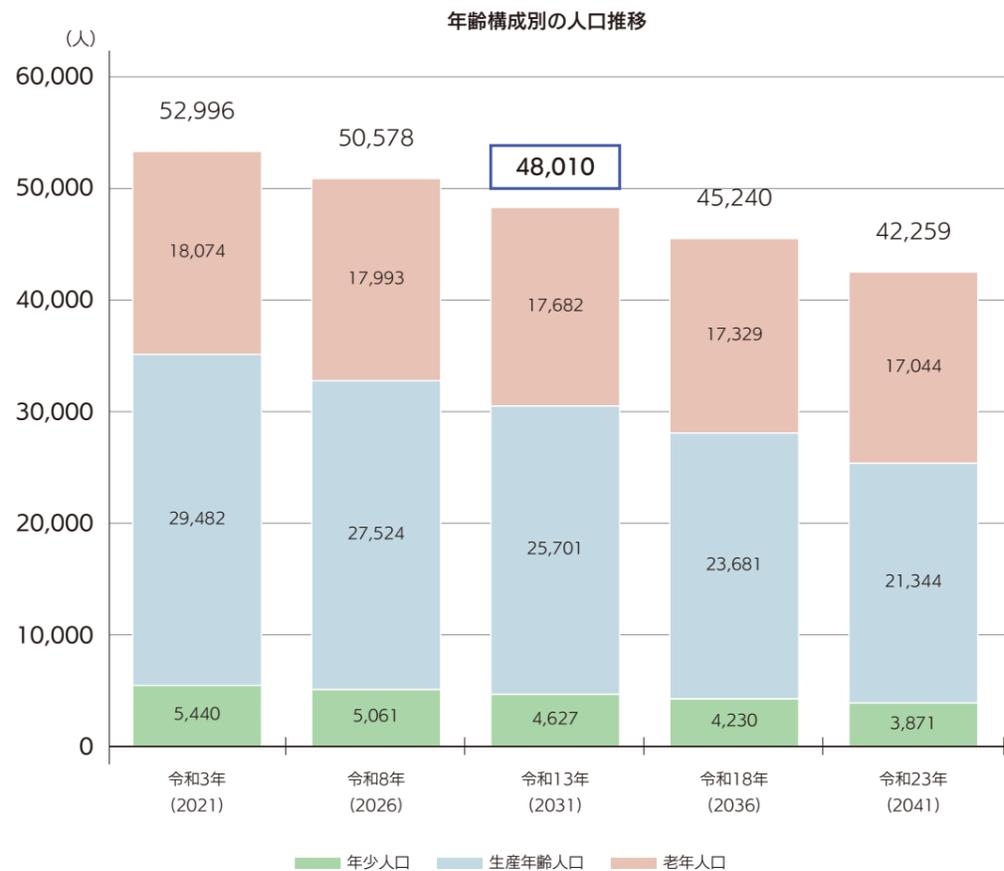
これまでの総合計画では「国勢調査人口」を基準としていましたが、人口動態をリアルタイムで把握できるなど、PDCAサイクルによる進行管理を行っていく上でメリットが大きい「住民基本台帳人口(令和2年12月末)」を基準としています。

②推計結果概要

年齢構成別人口・高齢化率 (人)

	実績値	推計値				
	R2 2020年	R3 2021年	R8 2026年	R13 2031年	R18 2036年	R23 2041年
年少人口	5,513	5,440	5,061	4,627	4,230	3,871
生産年齢人口	29,882	29,482	27,524	25,701	23,681	21,344
老年人口	18,079	18,074	17,993	17,682	17,329	17,044
合計	53,474	52,996	50,578	48,010	45,240	42,259
増減	-	△478	△2,418	△2,568	△2,770	△2,981
高齢化率	33.8%	34.1%	35.6%	36.8%	38.3%	40.3%
合計特殊出生率※	1.24	1.24	1.24	1.24	1.24	1.24

※合計特殊出生率：厚生労働省「人口動態統計特殊報告」による数値(H20～H24)



③推計結果を踏まえた人口減少対策の方向性

人口減少を克服し、少子高齢化の進行に歯止めをかけるため、以下のとおり目指す方向性を定めています。

①子育て世帯の移住・定住を促進する

「子育て世帯に選ばれるまち」を目指し、コンパクトシティとしての利便性や仙台との近接性など、本市が持つあらゆる強みを生かし、移住・定住促進に関する施策の充実と戦略的なプロモーションにより、子育て世帯の移住・定住を促進します。

年間30世帯・105人の子育て世帯の転入増を目指す

※1世帯あたり3.5人を想定(子育て三世帯同居近居住宅取得支援事業実績値)

②子どもを産み育てやすい環境を整える

保育環境の充実や、一人ひとりの個性を生かす学びの提供、地域全体で子育てや教育を応援する体制の充実を図ることで、安心して出産・子育てができる環境を整えます。

令和13年度までの10年間で135人の出生数増を目指す

※①の転入世帯が転入後の翌年から10年間のうちに1人出産することを想定

方向性②イメージ

転入増(女性) /出生者	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23
R4	30	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3									
R5	30		3	3	3	3	3	3	3	3	3	3								
R6	30			3	3	3	3	3	3	3	3	3	3							
R7	30				3	3	3	3	3	3	3	3	3	3						
R8	30					3	3	3	3	3	3	3	3	3	3					
R9	30						3	3	3	3	3	3	3	3	3	3				
R10	30							3	3	3	3	3	3	3	3	3	3			
R11	30								3	3	3	3	3	3	3	3	3	3		
R12	30									3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
R13	30										3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
R14	30											3	3	3	3	3	3	3	3	3
R15	30												3	3	3	3	3	3	3	3
R16	30													3	3	3	3	3	3	3
R17	30														3	3	3	3	3	3
R18	30															3	3	3	3	3
R19	30																3	3	3	3
R20	30																	3	3	3
R21	30																		3	3
R22	30																			3
R23	30																			
合計	600	3	6	9	12	15	18	21	24	27	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
累計	—	3	9	18	30	45	63	84	108	135	165	195	225	255	285	315	345	375	405	435
			1~5年目 30			6~10年目 105					11~15年目 150					16~20年目 150				

④人口減少対策後の人口動向

年齢構成別人口比較

(人)

		実績値		推計値			
		R2 2020年	R3 2021年	R8 2026年	R13 2031年	R18 2036年	R23 2041年
対策後①	年少人口	5,513	5,440	5,615	5,852	6,183	6,631
	生産年齢人口	29,882	29,482	27,886	26,418	24,990	23,459
	老年人口	18,079	18,074	17,993	17,682	17,329	17,044
	合計	53,474	52,996	51,494	49,952	48,502	47,134
対策前②	年少人口	5,513	5,440	5,061	4,627	4,230	3,871
	生産年齢人口	29,882	29,482	27,524	25,701	23,681	21,344
	老年人口	18,079	18,074	17,993	17,682	17,329	17,044
	合計	53,474	52,996	50,578	48,010	45,240	42,259
増減①②	年少人口	0	0	+554	+1,225	+1,953	+2,760
	生産年齢人口	0	0	+362	+717	+1,309	+2,115
	老年人口	0	0	0	0	0	0
	合計	0	0	+916	+1,942	+3,262	+4,875



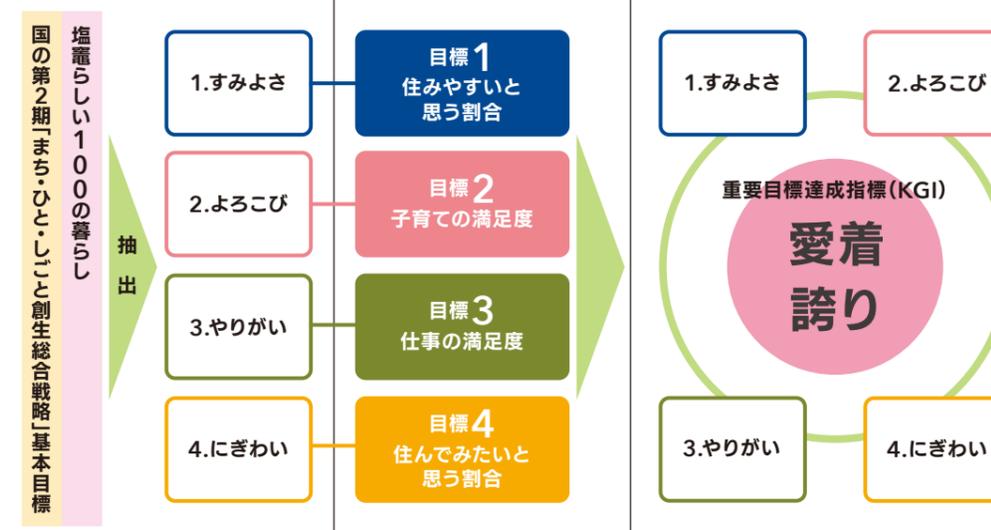
(7) 4つの実感プロジェクトの目標値と重要目標達成指標(KGI)の関連性について

①4つの実感プロジェクトの目標値と重要目標達成指標の検討経過

- ①「塩竈らしい100の暮らし」からのまちのイメージと国の第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標を組み合わせ、都市像の実現に向けた原動力として『すみよさ』『よろこび』『やりがい』『にぎわい』の4つ実感プロジェクトのテーマを抽出。
- ②4つの実感プロジェクトごとに目標を定め、目標を達成するための施策とその効果を表す「好循環モデル」を描き、重点的に取り組む施策の方向性を設定。
- ③4つの実感プロジェクトごとの「好循環モデル」を重ね合わせ、それぞれの目標を達成するための取組とその相乗効果が「愛着・誇りの醸成」につながり、さらにそれが4つの実感プロジェクトに循環していく「好循環モデル」を描き、「愛着・誇り」の醸成を重要目標達成指標(KGI)に設定。

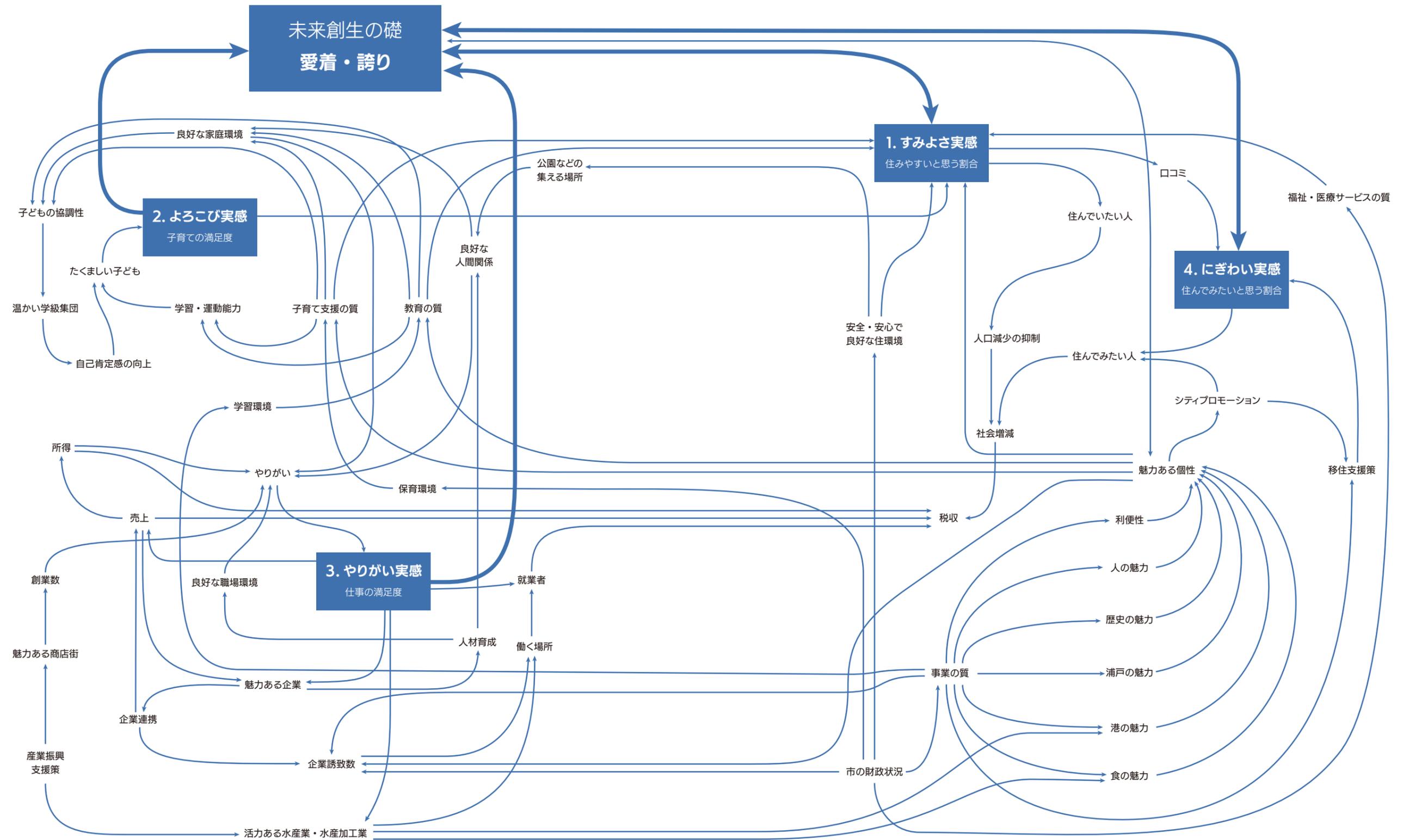
②4つの実感プロジェクトの目標値と重要目標達成指標の検討経過イメージ

- ①4つの実感プロジェクトのテーマ抽出
- ②4つの実感プロジェクトごとの目標と好循環モデルによる重点施策の方向性の設定
- ③4つの実感プロジェクトごとの好循環モデルを重ね合わせ重要目標達成指標(KGI)に「愛着・誇り」を設定



④しおがま未来創生プロジェクト好循環モデル

4つの実感プロジェクトごとの「好循環モデル」を重ね合わせ、それぞれの目標を高めていく取組とその相乗効果が「愛着・誇りの醸成」につながり、さらにそれが4つの実感プロジェクトに循環していく「好循環モデル」を描き、「愛着・誇り」の醸成を重要目標達成指標(KGI)に設定しました。



(8) 第6次塩竈市長期総合計画の構成

まちづくりの基本理念

『今ある個性を大切にし、みんなでつなぎ合わせて、新しい魅力を創り上げていく、未来に続くまちづくり』

序論

①本市の特性

- 人口特性:自然減による人口減少が顕著
- 地理的特性:市域が小さくかつ機能が集約したコンパクトシティ
- 産業特性:食産業の特化係数が高い

②主な時代の潮流

- 人口減少・少子高齢化社会
- 地方創生の推進
- 情報化・デジタル化の進展
- 地球環境問題の深刻化
- 新型コロナウイルス感染症による社会・経済への影響
- SDGsの取り組み推進

③まちづくりの課題

- 人口減少・超高齢社会進展への対応
- 豊かさや幸せを実感できる地域社会の構築とまちの魅力度向上
- 地域の個性を十分に活用した産業振興
- 新たな危機への対応

④まちづくりへの想い

(塩竈らしい100の暮らし)

【想い】『楽しみながらこれからも塩竈で暮らしていきたい』

【4つのまちのイメージ】

- 住んでいて心地良く、誇りを持てるまち
- 子どもたちが生き生きしているまち
- 地域特性を生かしたやりがいのあるまち
- さまざまな人たちとつながり、賑わいがあるまち

⑤まちづくりの視点

- 持続可能なまちづくり
- シビックプライド醸成

⑥まちづくりの手法

- 協働・共創のまちづくり
- 社会情勢の変化にも柔軟に対応できるまちづくり

基本構想

令和4年度～令和13年度

■目指す都市像
海と社に育まれる
楽しい



■まちづくりの目標

～未来に続く8つの塩竈物語～

分野1 子ども	子どもたちの 笑い声が あふれるまち	
分野2 福祉	みんなが 生き生き しているまち	
分野3 生活	快適に 住み続けられるまち	
分野4 産業	活気があり、誇りをも って働いている人が たくさんいるまち	
分野5 交流	何度でも 訪れたいまち	
分野6 文化	日常に彩りが あるまち	
分野7 協働	みんなが 主役になれるまち	
分野8 浦戸諸島	自然と調和した 和やかな暮らしと 癒しがあるしま	

■将来人口
50,000人

(令和13年末住民基本台帳人口)

前期基本計画

令和4年度～令和8年度



■まちづくりの方向性

健やかに育つ・
育てる環境づくり

健康で安心して暮らせる
地域づくり

安全で安心な
コンパクトさを生かした
住環境づくり

活力に満ちた産業づくり

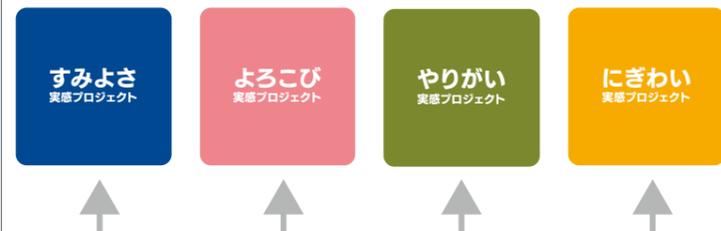
観光交流による
賑わいづくり

生涯にわたって
学びあえる風土づくり

さまざまな個性が
つながり、役割を
発揮できる環境づくり

人々が住まい・集える
持続可能な島づくり

■しおがま未来創生プロジェクト (第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略)



■施策の柱

○「妊娠」から「子育て」までの切れ目ない支援体制の構築
○未来を担う子どもを育むための学習環境の充実
○地域全体で子育てや教育を支える体制の充実

○みんなが生きがいを持ち安心して暮らせる支援体制の充実
○健康増進と健康寿命の延伸による元気の創出
○安心できる地域医療体制の充実

○災害などに対する「強さ」と「しなやかさ」を持ち、安全・安心に生活できる都市環境づくり
○コンパクトで生活サービスが充実した「住んでいたい・住んでみたいまち」の形成
○豊かな自然と調和した環境にやさしい循環型社会の形成

○数多くの地域資源を生かした「みやぎの台所・しおがま」の創造
○商工業者の持続的な経営安定や事業承継・新規創業への支援の充実による地域活力の向上
○海とみなとを生かした活力づくりや新たな産業と若者も満足できる雇用の創出

○地域資源を最大限活用した観光メニューの創出
○塩竈ブランドの確立とおもてなし体制の充実・広域連携による交流人口の拡大

○豊かな歴史やこれまで培ってきた文化を未来へつなぐ取組の充実
○生活にうおいを与える生涯学習・生涯スポーツの展開
○芸術・文化・スポーツなど、各分野で活躍できる人材の育成

○塩竈の魅力向上に向けた市民活動への支援体制の充実
○大学や企業等との交流・連携・共創と多様化する社会への理解促進
○効果的・効率的で透明性の高い行政経営

○健康で安心して住み続けられる生活環境の充実
○浦戸産品(海産物・農産物)の高付加価値化や担い手育成による産業の振興
○浦戸ならではの自然や歴史・文化を生かした交流の推進

「塩竈らしい100の暮らし」からの
まちのイメージ

国の第2期まち・ひと・しごと創生
総合戦略の基本目標

住んでいて心地良く、
誇りを持てるまち、
子どもたちが生き生き
しているまち、
地域特性を生かした
やりがいのあるまち、
さまざまな人たちと
つながり、賑わい
があるまち

1. 稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする
2. 地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる
3. 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
4. ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

(9) 第6次塩竈市長期総合計画の施策の柱とSDGsの17の目標の関係

基本構想				SDGs 目標 (ゴール)																			
分野	目標	まちづくりの方向性	施策の柱	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17			
1 子ども	子どもたちの 笑い声があふれるまち	～健やかに育つ・育てる環境づくり～	(1)「妊娠」から「子育て」までの切れ目ない支援体制の構築	●	●	●	●	●												●			
			(2)未来を担う子どもを育むための学習環境の充実				●																
			(3)地域全体で子育てや教育を支える体制の充実				●															●	
2 福祉	みんなが生き生き しているまち	～健康で安心して暮らせる地域づくり～	(1)みんなが生きがいを持ち安心して暮らせる支援体制の充実	●	●	●																	
			(2)健康増進と健康寿命の延伸による元気の創出		●	●																	
			(3)安心できる地域医療体制の充実			●																	
3 生活	快適に住み続けられるまち	～安全で安心なコンパクトさを 生かした住環境づくり～	(1)災害などに対する「強さ」と「しなやかさ」を持ち、安全・安心に生活できる都市環境づくり									●		●		●				●			
			(2)コンパクトで生活サービスが充実した「住んでいたい・住んでみたいまち」の形成							●			●		●					●			
			(3)豊かな自然と調和した環境にやさしい循環型社会の形成								●		●		●	●	●	●	●				
4 産業	活気があり、誇りをもって 働いている人が たくさんいるまち	～活力に満ちた産業づくり～	(1)数多くの地域資源を生かした「みやぎの台所・しおがま」の創造								●	●			●		●						
			(2)商工業者の持続的な経営安定や事業承継・新規創業への支援の充実による地域活力の向上										●	●									
			(3)海とみなとを生かした活力づくりや新たな産業と若者も満足できる雇用の創出										●	●									
5 交流	何度でも訪れたいまち	～観光交流による賑わいづくり～	(1)地域資源を最大限活用した観光メニューの創出								●				●								
			(2)塩竈ブランドの確立とおもてなし体制の充実・広域連携による交流人口の拡大										●										
6 文化	日常に彩りがあるまち	～生涯にわたって学びあえる風土づくり～	(1)豊かな歴史やこれまで培ってきた文化を未来へつなぐ取組の充実					●															
			(2)生活にうおいを与える生涯学習・生涯スポーツの展開					●															
			(3)芸術・文化・スポーツなど、各分野で活躍できる人材の育成					●															
7 協働	みんなが主役になれるまち	～さまざまな個性がつながり、 役割を發揮できる環境づくり～	(1)塩竈の魅力向上に向けた市民活動への支援体制の充実																	●	●		
			(2)大学や企業等との交流・連携・共創と多様化する社会への理解促進						●					●							●	●	
			(3)効果的・効率的で透明性の高い行政経営												●						●	●	
8 浦戸諸島	自然と調和した 和やかな 暮らしと癒しがあるしま	～人々が住まい・集える持続可能な島づくり～	(1)健康で安心して住み続けられる生活環境の充実			●	●			●				●									
			(2)浦戸産品(海産物・農産物)の高付加価値化や担い手育成による産業の振興											●		●		●					
			(3)浦戸ならではの自然や歴史・文化を生かした交流の推進			●	●						●	●									

資料編

(10) しおがま未来創生プロジェクトとSDGsの17の目標の関係

実感プロジェクト		SDGs 目標 (ゴール)																			
プロジェクト名	重点施策 (好循環を生み出す施策)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17			
すみよさ実感プロジェクト	(1) 良好な住環境の創出と利便性の向上							●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	
	(2) 福祉・医療サービスの充実	●	●	●																	
	(3) 生涯学習・生涯スポーツの充実				●																
	(4) 協働体制の確立											●							●	●	●
よるこび実感プロジェクト	(1) 切れ目ない子育て支援	●	●	●	●	●														●	●
	(2) 塩竈らしい特色ある教育				●															●	●
	(3) 文化・スポーツの振興による人材育成				●																
	(4) 住環境の向上																			●	●
やりがい実感プロジェクト	(1) 塩竈らしさを生かした産業の活力づくり									●	●			●		●					
	(2) 商業の活性化									●	●			●		●					
	(3) 快適で魅力のある雇用環境の創出			●		●			●	●	●		●		●				●	●	●
にぎわい実感プロジェクト	(1) 個性の磨き上げによる魅力の向上																				
	〔歴史・文化〕					●						●			●						
	〔食・港〕											●	●			●					
	〔浦戸〕			●	●						●	●			●						
(2) 移住定住支援施策の充実													●								
(3) 協働・共創による地域活力の向上																			●	●	●

(11) 第6次塩竈市長期総合計画と主な個別計画との関連性

*「分野」欄の()書きの数字は、各個別計画が関連する前期基本計画の施策体系の節を示しています。

個別計画名	計画期間(策定年度)	分野1 子ども	分野2 福祉	分野3 生活	分野4 産業	分野5 交流	分野6 文化	分野7 協働	分野8 浦戸諸島
塩竈市人育成基本方針	平成18年度							(3)	
第2期塩竈市まち・ひと・しごと創生総合戦略	令和4(2022)～8(2026)年度	(1)(2)		(2)	(1)(2)(3)	(1)	(1)		(1)(2)(3)
塩竈市国土強靱化地域計画	令和3(2021)～8(2026)年度			(1)					
第4次行政財政改革推進計画	平成30(2018)～令和4(2022)年度							(3)	
塩竈市公共施設等総合管理計画	平成29(2017)～令和28(2046)年度			(2)					
塩竈市公共施設再配置計画	平成29(2017)～令和28(2046)年度			(2)					
塩竈市公共施設個別施設計画	令和3(2021)～8(2026)年度			(2)					
塩竈市地域防災計画	平成26年度			(1)					
塩竈市地域安全まちづくり基本計画	令和4(2022)～8(2026)年度			(1)					
しおがま男女共同参画基本計画	令和4(2022)～8(2026)年度							(2)	
第3期塩竈市障がい福祉計画	平成30(2018)～令和5(2023)年度		(1)						
第6期塩竈市障がい福祉計画	令和3(2021)～5(2023)年度		(1)						
第2期塩竈市障がい児福祉計画	令和3(2021)～5(2023)年度		(1)						
第2期のひのび塩竈っ子プラン～塩竈市子ども・子育て支援事業計画/塩竈市次世代育成支援行動計画～	令和2(2020)～6(2024)年度	(1)(3)							
塩竈市母子保健計画	令和3(2021)年度 ※単年度計画	(1)(3)							
高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画	令和3(2021)～5(2023)年度		(1)(3)						
塩竈市健康増進計画「健康しおがま21プラン」(第2期)	平成25(2013)～令和5(2023)年度		(2)						
第3期塩竈市食育推進計画「おいしおがま推進プラン」	令和1(2019)～5(2023)年度	(2)	(2)						
塩竈市自殺対策推進計画	令和1(2019)～8(2026)年度	(1)(2)	(2)						
塩竈市国民健康保険第2期データヘルス計画	平成30(2018)～令和5(2023)年度		(2)						
塩竈市国民健康保険第3期特定健康診査等実施計画	平成30(2018)～令和5(2023)年度		(2)						
創業支援等事業計画	平成28(2019)～令和7(2025)年度				(2)				
塩竈市観光振興ビジョン	平成30(2018)～令和7(2025)年度					(1)(2)			(3)
第2次塩竈市環境基本計画	平成27(2015)～令和6(2024)年度			(3)					
第2期塩竈市交通事業会計経営健全化計画	平成27(2015)～令和6(2024)年度								(1)
塩竈市都市マスタープラン	平成29(2017)～令和18(2036)年度			(2)					
塩竈市景観計画	平成28年度			(2)					
塩竈市耐震改修促進計画	令和3(2021)～7(2025)年度			(1)					
塩竈市公営住宅等長寿命化計画	令和3(2021)～12(2030)年度			(2)					
塩竈市橋梁長寿命化修繕計画	令和3(2021)～7(2025)年度			(2)					
仙塩広域都市計画下水道事業 塩竈市流域関連公共下水道事業計画	昭和33(1958)～令和7(2025)年度			(2)					
塩竈市下水道事業経営戦略	令和3(2021)～12(2030)年度			(2)					
塩竈市水道事業基本計画	令和4(2021)～13(2030)年度			(2)					
塩竈市水道事業施設整備計画	平成26(2014)～令和10(2028)年度			(2)					
塩竈市水道事業経営戦略	令和2(2020)～11(2029)年度			(2)					
第2期塩竈市教育振興基本計画	令和4(2022)～13(2031)年度	(2)(3)					(1)(2)(3)		(1)
塩竈市学校給食運営プラン	平成25年度	(2)							
塩竈市学校施設長寿命化計画	令和3(2021)～12(2030)年度	(2)							
塩竈市生涯学習プラン	令和4(2022)～13(2031)年度	(3)					(1)(2)(3)		
市立病院経営強化プラン	令和4(2022)～9(2027)年度 ※令和4年度策定予定		(3)						

(12) 用語集

ア行

●IoT (Internet of Things)

コンピューターなどの情報・通信機器だけでなく、世の中に存在するさまざまな物体(モノ)に通信機能を持たせ、インターネットに接続したり相互に通信することにより、自動認識や自動制御、遠隔計測などを行うこと。

●ICT (情報通信技術)

「Information and Communication Technology」の略で、パソコンやスマートフォン、タブレットなど、さまざまな形状のコンピュータを活用した情報処理や通信技術の総称。

●アウトソーシング

人材やサービスを外部の専門業者に委託すること。PPP(パブリック・プライベート・パートナーシップ:公民連携)の手法の一つ。

●空き家バンク

空き家物件の情報を地方公共団体のホームページ上などで提供する仕組み。

●イノベーション

新たなものを創造し、変革を起こすことで経済や社会に価値を生み出す様。

●Web博物館「文化の港シオーモ」

塩竈に関係の深い文化財や美術作品、文学作品を鑑賞することができるホームページ。

●SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)

Web上で人と人との交流をはじめとした社会的ネットワークを構築可能にするサービスのこと。

●SDGs(持続可能な開発目標)

2015年9月の国連サミットで採択された2016年から2030年までの国際目標であり、誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のための17の目標(ゴール)・169のターゲットから構成されている。

●温室効果ガス

地球温暖化の原因といわれている二酸化炭素、メタン、フロン、亜酸化窒素などのこと。これらのガス排出量増加により地球全体の平均気温が上昇する。

カ行

●外国語指導助手(ALT)

「Assistant Language Teacher」の略で、日本

人外国語担当教員の助手として外国語授業に携わる外国人のこと。

●化石燃料エネルギー

石油、石炭、天然ガスなどのことで、工業化が進んだ200年ほど前から人間がもっとも使ってきたエネルギー資源。

●通いの場

集会所などを会場に、高齢者をはじめ地域住民が主体となり、集団で行う体操などの介護予防に資する活動のこと。

●関係人口

移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、特定の地域や地域の人々と継続的に多様な形で関わる人々のこと。

●観光ガイドボランティア

観光客等を対象に、無料若しくは低廉な料金で、地域の観光資源や歴史、自然を案内するガイドのこと。

●観光振興コンセプト

塩竈市観光の理念として、平成30年3月に策定した「塩竈市観光振興ビジョン」で設定したもの。

●観光地域づくり法人(DMO)

観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など地域にある観光資源に精通し、地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立って、地域と協同して観光地域づくりを行う法人のこと。DMOは、Destination Management Organizationの頭文字の略。

●教育支援センター「コラソン」

塩竈市内の小中学校に在籍する不登校や不登校傾向にある児童生徒と、保護者の支援のために設立したセンターで、「コラソン」という愛称で呼ばれている。コラソンとは、ポルトガル語で「心」「魂」の意味。

●教育旅行

教育を目的として実施される旅行であり、遠足や修学旅行、林間学校、移動教室、宿泊学習、野外活動等が含まれる。

●ケアマネジメント

サービスを必要とする利用者と、実際の福祉サービスや医療サービスなどの提供をつなぎ合わせること。

●健康寿命

健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のこと。

●健康推進員

市の委嘱を受けて、市が実施する地域でのがん検診や特定健康診査、健康教室、健康イベントを開催する事業の支援を行う人のこと。

●高付加価値化

従来の商品にそれまで以上の価値を付けて、他商品と差別化を図り、より高価格で販売できるようにすること。

●交流人口

観光やイベント等を通じて、その地域を訪れる人、または交流する人のこと。

●子育て世代包括支援センター

妊娠・出産・育児に関する妊産婦や保護者の相談に保健師等の専門スタッフが対応し、必要な支援の調整や地域の保健、医療、福祉の関係機関との連絡調整を行うなど、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を一体的に提供する施設。

●子どもの権利

1990年「子どもの権利条約」が国際条約として発効され、この条約において、「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」の大きく4つが定められている。

●こどもほっとスペースづくり支援事業

放課後に子どもにとって魅力的な事業を提供し、次代を担う子どもの育成を図る「塩竈アフタースクール事業」の一環として、子どもたちの放課後等の居場所となる「こどもほっとスペース」の立ち上げや運営を行う団体に、必要な費用を助成する事業。

●コンパクトシティ

市町村の中心部に居住地や都市機能を集積させて、市街地の活性化や行政コストの削減を図り、利便性を向上させるまちづくりの考え方。

サ行

●再生可能エネルギー

太陽光・風力・地熱・バイオマスなど、利用時に温室効果ガスを排出せず、エネルギー源として持続的に利用することができる、地球環境に対

して負荷の少ない自然界のエネルギーのこと。

●サテライトオフィス

企業の本社・本拠地から離れた場所に設置されたオフィスのこと。都市内、郊外、地方などで多様な働き方を促進することを目指すもの。

●塩竈産品販路拡大支援事業

国内需要の縮小や加工原料の高騰、人手不足など、厳しい状況が続く水産業・水産加工業の再生と創生に向け、海外販路も視野に入れて取り組む販路拡大事業。

●鹽竈神社の祭り

鹽竈神社の氏子(うじこ)三祭(さんさい)(神輿が市内巡幸)として、3月に開催される火伏の祭りである「帆手祭」、4月の桜の季節に開催される「花祭」、7月に開催され日本三大船祭に数えられる「みなと祭」がある。

●自主防災組織

「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚、連帯感に基づき、自主的に結成する組織であり、災害による被害を予防し、軽減するための活動を行う。

●シビックプライド

まちに対する市民の誇り、自分自身が関わってまちを良くしていこうとする思い。

●社会的な活動

働いていることやボランティア活動、地域社会活動、サークル活動などのこと。

●重要業績評価指標(KPI)

Key Performance Indicatorの略で、政府、企業、団体、個人などが一定の目標達成に向けて、そのプロセスが順調に進んでいるかどうかを点検するためのもっとも重要な指標のこと。

●重要目標達成指標

最終目標が達成されているかを計測するための指標のことで、KGI(Key Goal Indicator)とも呼ばれる。

●循環型社会

廃棄物のうち有用なものを循環資源として利用し、適正な廃棄物の処理をすることで、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会。

●食育

様々な経験を通じて、食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践するこ

とができる人間を育てること。

●商流

「商的流通」の略で、生産から消費活動までの一連の流れで、流通過程で商品の売買によって、所有権が移転する商取引を指す。

●人工知能(AI:Artificial Intelligence)

コンピュータがデータを分析し、推論や判断、最適化提案、課題定義や解決、学習などを行う人間の知的能力を模倣する技術のこと。

●親水空間

地形や生態系など、水辺の個性を生かした、人々が水辺と触れあうための空間。

●スクールガード・リーダー

地域と連携し、安全で安心できる学校の安全体制を確立するために、防犯の専門家や警察官OB等を地域学校安全指導員として市が認定し、学校の巡回指導や学校安全ボランティア(スクールガード)の指導育成を行う。

●3R(スリーアール)

環境と経済が両立した循環型社会を形成していくための3つの取組の頭文字をとったものであり、リデュース(廃棄物の発生抑制)、リユース(再使用)、リサイクル(再資源化)の順番で取り組むことが求められている。

●成果指標

政策目標の実現に向けて、その達成度を確認するため、具体的な目標となる項目を定め、その目指すべき水準について数値などを用いて定量的に分かりやすく示したもので、「見える化」することにより、進捗状況の点検・評価のほか、事業や計画の見直しに活用する。

●創業支援等事業計画

地域の創業を促進させるため、市区町村が民間の創業支援事業者(地域金融機関、商工会議所等)と連携して策定する計画で、国の認定を受けるとにより、創業者の支援を行える。

●Society5.0

狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会。

タ行

●タイムシップ塩竈

市民図書館内にある、塩竈の豊かな歴史を楽しみながら学べる歴史展示室で、縄文時代から現代までの塩竈の歴史資料・文献を展示している。

●脱炭素社会

地球温暖化の原因となる、温室効果ガスの排出量を抑制し、排出された二酸化炭素を回収することで、温室効果ガスの実質的な排出量ゼロを実現する社会。

●多文化共生

国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。

●ダブルケア

女性の社会進出などによる晩婚化と出産年齢の高齢化の結果、育児期にある者(世帯)が同時期に親等の介護も担うこと。

●地域おこし協力隊

都市地域から人口減少や高齢化等が進む地方に移住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を促進して、地域力の維持向上を図る取組のこと。

●地域資源

特定の地域に存在する特徴的なもので、資源として活用可能なもの。伝統的な街並み、歴史や文化、祭り等の行事、特産品や伝統的に承継された地場産業や温泉といったものに加え、地域の普段の生活や地形等の自然条件、気風、おもてなしの心など、有形無形のものがある。

●地域ブランディング

地域の固有性を持つ資源(原材料、加工・製造技術、歴史的いわれ等)を活用して、地域の商品にブランドの機能を持たせる取組。

●地域包括支援センター

市町村が設置主体となり、地域の高齢者の総合相談、権利擁護や地域の支援体制づくり、介護予防の必要な援助などを行い、高齢者の保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的とする、地域包括ケア実現に向けた中核的な機関。

●地方創生

地方の持つ様々な特徴や強みを生かし、創意工夫しながら主体的・自立的に魅力ある地域づくりを推進することにより、少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけ、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことを目指す取組。

●超高齢社会

高齢者とされる65歳以上の人口の全人口に対する割合（高齢化率）が21%を超える社会のこと。世界保健機関(WHO)などの定義では、高齢化率が7%を超えると「高齢化社会」、14%を超えると「高齢社会」、21%を超えると「超高齢社会」とされている。

●調和のとれた食生活

健康的で栄養バランスのとれた食生活とあわせて、生活リズムも望ましいスタイルにすること。

●デジタルシフト

デジタル技術を応用して、暮らしや社会を便利にしていくこと。

●デジタル・トランスフォーメーション(DX)

デジタル技術の革新によって、社会が大きく様変わりしていくこと。DXの技術として、AI(人工知能)やIoT、5Gなどが活用されている。

●特殊詐欺

親族や公共機関の職員等を名乗って電話をかけるなどして、対面することなく被害者を信頼させ、現金などをだまし取る犯罪。

●特化係数

域内のある産業の比率を全国の同産業の比率と比較したもの。1を超えていれば、当該産業が全国に比べて特化しているとされる。

●ドメスティックバイオレンス(DV)

配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者から振られる暴力のこと。

ナ行

●認知症サポーター

認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族を温かく見守り、自分のできる範囲で活動を行う支援者のこと。

●認定こども園

教育・保育を一体的に行う、幼稚園と保育所の両方の機能や特長を併せ持った施設で、地域の子育て支援も行い、働いている・いないにかかわらず利用可能。

ハ行

●8050問題

子どもの「ひきこもり」を背景に、高齢化した「80」代の親が「50」代の子どもの生活を支えるという社会問題のこと。

●ハザードマップ

発生が予測される自然災害について、その被害の及ぶ範囲、被害の程度、さらに避難の道筋、避難場所等を表したもので、市で公開している災害予測地図。

●パートナーシップ

協力関係、共同、提携のこと。

●バリアフリー

高齢者や障害のある人が社会参加をするうえで、障害(バリア)となるものが除去され、自由に社会参加できるようなシステムづくりの概念。

●プロモーション活動

消費者に商品やサービスの存在や魅力を知ってもらうために、商品価値や内容を伝えるなど認知度を高めるための活動。

●ベイエリア

港湾施設がある地区及びその後背地。

●放課後児童クラブ

小学校に就学している、就労等により保護者が昼間家庭での養育ができない子どもを対象として、放課後の時間帯に子どもに適切な遊びや生活の場を提供し、支援することを通して、子どもの健全育成を図ることを目的とする事業。

●ポータルセールス

港湾施設の利用促進に向けて関連企業・団体等に紹介するセールス活動やセミナーを開催するPR活動のこと。

マ行

●マーケットイン

マーケットイン(market in)とは、市場や購買者という買い手の立場に立ち、顧客の声や視点を重視し、顧客の要求や困りごとを突き止め、それらを解決する製品を企画・開発して市場に投入しようとする考え方のこと。対義語はプロダクトアウト(product out)で、買い手(顧客)のニーズよりも、製品を提供する側からの発想で、商品開発・生産・販売などの活動を行おうとする考え方をいう。

●民生委員・児童委員

厚生労働大臣から委嘱を受け、地域福祉推進の担い手として、ボランティアで生活や福祉全般に関する相談・支援を行う非常勤の地方公務員で、児童委員を兼ねる。児童委員は、地域の子どもの元気に安心して暮らせるように、子どもを見守り、子育ての不安や妊娠中の心配ごとなどの相談や支援等を行う。

ヤ行

●有機的

様々なものが関連性を持って、一体となつてうまく機能していること。

●ユニバーサルデザイン

年齢、性別、身体的状況、国籍、言語、知識、経験などの違いに関わらず、できるだけ多くの人が使いこなせるものや環境のデザインを目指す概念のこと。

ラ行

●ライフステージ

人の一生における加齢にともなう変化を、いくつかの段階に区切って考える場合のそれぞれの段階のこと。段階の分け方の一例として、人の誕生から成長発展の過程について、乳幼児期、学童期、青年期、成人・壮年期、高齢期などとしている。

●リモートワーク

コンピュータや通信回線などを利用して、勤務先のオフィス以外の場所で仕事をする。

●6次産業化

農林水産物を収穫・漁獲(第1次産業)するだけでなく、加工(第2次産業)し、流通・販売(第3次産業)まで手がけること。「6次産業」の6は、「1次産業の1」×「2次産業の2」×「3次産業の3」のかけ算の6を意味している。

ワ行

●ワークショップ

本来は「作業場」「工房」という意味であるが、現在では、参加者が与えられたテーマを元に、討論・体験・作業などを行いながら、個々に考え、協力し合い、気づき、創造する場というような意味で使われる。

●ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)

働くすべての人々が、仕事と育児や介護、趣味や学習、休養、地域活動といった仕事以外の生活との調和をとり、その両方を充実させる働き方・生き方のこと。

●ワーケーション

「ワーク」(労働)と「バケーション」(休暇)を組み合わせた造語。観光地やリゾート地でテレワーク(リモートワーク)などを活用し、働きながら休暇をとる過ごし方。

●ワンストップ

複数の機関や窓口に分かれていた手続きを一度に行えるなど、1か所で用事が足りたり、何でも揃ったりすること。